ケキナB-58

帝國六法全書

帝國六法全書總目次

大日本帝國憲法

告文

憲法發布勅語

帝國憲法

皇室典範

皇室婚嫁令

議院法

衆議院議員選擧法

改正衆議院議員選擧法

法例

法例ヲ臺灣ニ施行スル件
省令廳令警察令ニ關スル罰則ノ件
命令ノ條項違犯ニ關スル件
臺灣ニ施行スヘキ法令ニ關スル件
外國人ノ署名捺印及無資力證明ニ關スル件
公文式
官報到達日數
地方官廳ノ發スル命令ノ公布式

改正民法

民法總則物權債權親族相續
民法施行法
國籍法
民法中改正
民法施行法中改正
內務大臣ノ主管ニ屬スル社團財團ノ法人ト爲スニ付キ申請方
宗教ノ宣布又ハ宗教上ノ儀式執行ヲ目的トスル法人ノ設立等ニ關スル規程
司法大臣ノ主管ニ關スル社團財團ノ法人ト爲スニ付キ申請方
文部大臣ノ主管ニ關スル法人ノ設立及監督ニ關スル規程
農商務大臣ノ主管ニ關スル法人設立ノ件
地上權ニ關スル件
殖林ノ爲メ設定シタル地上權登記ニ關スル件
地所質入書入規則
外國人抵當ニ關スル件
利息制限法

失火ノ責任ニ關スル法律

相續人曠缺ノ場合ニ於テ國庫ニ歸屬シタル財産ノ引渡ニ關スル件

民法ノ規定ニ依ル遺言ノ確認ニ關スル件

確定日付簿及日附アル印章調製方

私署證書確定日附ノ手數料

國籍喪失者ノ權利ニ關スル件

外國人ヲ養子又ハ入夫ト爲サントスル者ノ出願手續ニ關スル件

外國人ヲ養子又ハ入夫ト爲スノ件

外國ニ於テ婚姻ヲ爲ストキ證明書ニ關スル件

人事訴訟手續法

人事訴訟手續法第一條三項ノ住所地指定

人事訴訟法第三章ニ依リ爲スヘキ公告方法

非訟事件手續法

非訟事件手續法第二百九條ノ二ニヨリ外國人ノ遺産ノ保存處分ニ關スル件

法人及夫婦財産契約登記取扱手續

法人夫婦財産契約登記簿ノ謄本抄本等ノ手數料ノ件

商業登記取扱手續

改正商法

改正商法

商法施行法

破産法

舊商法施行條例

商事非訟事件印紙法

保險業法

保險業法施行規則
外國保險會社ニ關スル件
外國保險會社ニ關スル件(農商務省令)
相互保險會社登記取扱手續
相互保險會社登記簿謄本抄本等ノ手數料ノ件
外國相互保險會社登記簿謄本抄本等ノ手數ノ件
商法中署名スヘキ場合ニ關スル件
商法施行前ニ登記ナキ株式會社ノ登記ニ關スル件
保險業法制定商法施行法第九十五條乃至第百十六條削除
商法第五百六十二條ニ揭クル書類ノ件
商法施行法第百二十二條ノ規定ニ依リ湖川、港灣及沿岸小航海ノ範圍ノ件

民事訴訟法

民事訴訟法
民事訴訟法施行條例
民事訴訟費用法
家資分散法
民事訴訟法第十四條ニヨリ國ヲ代表スル規定
民事訴訟費用法中改正
訴訟書類郵便送達手數料
民事訴訟法第百五十二條ニ依ル送達ノ囑託手續準據方
民事上告豫納金手續

刑法

刑法
刑法附則
監獄則
監獄則施行細則
竊盜ノ罪ニ關スル件
公署、公吏竝公署ノ印、文書及免狀鑑札ニ關スル件
刑法新舊法比照
罰例處斷法
決鬪罪ニ關スル件
富籤興行禁止
當籤賣買者等處分方
憲兵卒職務ニ關スル犯罪處斷方
軍人制服着用無燈火乘馬ノ件
陸軍上等兵卒犯罪處斷方
爆發物取締罰則
命令ノ條項違犯ニ關スル罰則ノ件
省令廳令府縣令及警察令ニ關スル罰則
刑法附則中改正
監獄則中改正
監獄則施行細則中改正
瀆職法
商法ニ從ヒ破産ノ宣告ヲ受ケタル者ニ關スル件
軍港要港規則違犯者處分
勳章年金褫奪停止
議會竝議員保護ノ件

改正刑事訴訟法

改正刑事訴訟法
違警罪即決例
普通治罪法、陸海軍治罪法、交涉處分法
司法官吏ヨリ巡査、兵員、要求使用手續
沒收物件地方廳引繼ノ件
沒收物件取扱手續
間稅國稅犯則者處分法
間稅國稅犯則者處分法施行細則
裁判所及臺灣總督府法院共助ニ關スル費用及囚人
ル件
犯罪ノ用ニ供シ及犯罪ニ因テ得タル物件還付方
同上物件其所有主ヘ假ニ下渡方ノ件
囚人及刑事被告人押送規則
逃亡犯罪人引渡條例
外國艦船乘組員ノ逮捕留置ニ關スル援助法
領事官ノ職務ニ關スル法律

裁判所構成法

裁判所構成法
裁判所構成法施行條例
判事懲戒法
裁判所及臺灣總督府法院共助法
行政裁判法
訴願法

執達吏規則
執達吏手數料規則
辯護士法
辯護士法中改正

市制町村制

市制
町村制
町村ノ廢置分合ニ關スル件
東京市、京都市、大阪市ヲ除クノ外人口二十万以上ノ市區ニ關スル件
市町村行政ニ關シ主務大臣許可ノ職權ヲ府縣知事ニ委任ノ件
市制町村制第十五條ノ官吏ノ件
東京市、京都市、大阪市ノ區ニ關スル件
市町村名及市役所町村役場位置變更方
市町村會議員選擧罰則
町村制ヲ施行セサル島嶼
市町村制中直接稅間接稅ノ類別
市町村歳入出豫算表式
市町村制ノ最終調査人口
町村制第九條全條改正
市制中加除
市制町村制中加除
市制町村制中改正

府縣制郡制

府縣制

郡制

内務省令第六號ノ件
内務省令第十七號ノ件
内務省令第十八號ノ件
内務省令第十九號ノ件
内務省令第二十號ノ件
内務省告示第五十九號ノ件
勅令第二百二十六號ノ件
勅令第二百二十七號ノ件
勅令第二百二十八號ノ件
勅令第二百七十六號ノ件
内務省告示第六十九號ノ件
勅令第二百八十五號ノ件

内務省令第二十五號ノ件
勅令第三百十五號ノ件
勅令第三百十六號ノ件
内務省令第二十九號ノ件
内務省令第三十一號ノ件
内務省令第二十二號ノ件
内務省令第七號ノ件
勅令第八十一號ノ件
内務省令第十四號ノ件
勅令第二百四十八號ノ件
内務省令第十七號第一條第三項改正
内務省令第十八號第一條第三項改正
内務省告示第六十九號中改正

CZ
5
048

勅令第三百十五號中改正

帝國六法全書總目次畢

帝國憲法

告文
憲法發布敕語
帝國憲法
皇室典範
皇室婚嫁令
議院法
衆議院議員選擧法
改正衆議院議員選擧法
法例
法例ヲ臺灣ニ施行スル件
省令廳令警察令ニ關スル罰則ノ件

命令ノ條項違犯ニ關スル件
臺灣ニ施行スヘキ法令ニ關スル件
外國人ノ署名捺印及無資力證明ニ關スル件
公文式
官報到達日數
地方官廳ノ發スル命令ノ公布式

帝國憲法目次

告文　一丁
憲法發布勅語　三丁
帝國憲法
第一章　天皇　一丁
第二章　臣民權利義務　三丁
第三章　帝國議會　五丁
第四章　國務大臣及樞密顧問　八丁
第五章　司法　九丁
第六章　會計　十丁
第七章　補則　十二丁

帝國憲法目次

告文　一丁
憲法發布勅語　三丁
帝國憲法
第一章　天皇　一丁
第二章　臣民權利義務　三丁
第三章　帝國議會　五丁
第四章　國務大臣及樞密顧問　八丁
第五章　司法　九丁
第六章　會計　十丁
第七章　補則　十二丁

皇室典範

第一章　皇位繼承	一丁
第二章　踐祚即位	二丁
第三章　成年立后立太子	二丁
第四章　敬稱	三丁
第五章　攝政	三丁
第六章　太傅	五丁
第七章　皇族	六丁
第八章　世傳御料	七丁
第九章　皇室經費	八丁
第十章　皇族訴訟及懲戒	八丁
第十一章　皇族會議	九丁

第十二章　補則　十丁

議院法

第一章　帝國議會ノ召集成立及開會　一丁
第二章　議長書記官及經費　二丁
第三章　議長副議長及歳費　三丁
第四章　委員　四丁
第五章　會議　五丁
第六章　停會閉會　七丁
第七章　秘密會議　八丁
第八章　豫算案ノ議定　八丁
第九章　國務大臣及政府委員　九丁
第十章　質問　十丁

第十一章　上奏及建議　十一丁
第十二章　兩議院關係　十一丁
第十三章　請願　十三丁
第十四章　議院ト人民及官廳地方議會トノ關係　十五丁
第十五章　退職及議員資格ノ異議　十六丁
第十六章　請暇辭職及補闕　十七丁
第十七章　紀律及警察　十八丁
第十八章　懲罰　十九丁
衆議院議員選舉法　一丁

告文

皇朕レ謹ミ畏ミ
皇祖
皇宗ノ神靈ニ誥ケ白サク皇朕レ天壤無窮ノ宏謨ニ循ヒ惟神ノ寶祚ヲ承繼シ舊圖ヲ保持シテ敢テ失墜スルコト無シ顧ミルニ世局ノ進運ニ膺リ人文ノ發達ニ隨ヒ宜ク
皇祖
皇宗ノ遺訓ヲ明徴ニシ典憲ヲ成立シ條章ヲ昭示シ內ハ以テ子孫ノ率由スル所ト爲シ外ハ以テ臣民翼贊ノ道ヲ廣メ永遠ニ遵行セシメ益々國家ノ丕基ヲ鞏固ニシ八洲民生ノ慶福ヲ增進スヘシ茲ニ皇室典範及憲法ヲ制定ス惟フニ此レ皆皇祖
皇宗ノ後裔ニ貽シタマヘル統治ノ洪範ヲ紹述スルニ外ナラス而シテ朕カ躬ニ逮テ時ト俱ニ擧行スルコトヲ得ルハ洵ニ

皇祖
皇宗及我カ
皇考ノ威靈ニ倚藉スルニ由ラサルハ無シ皇朕レ仰テ
皇祖
皇宗及
皇考ノ神祐ヲ禱リ併テ朕カ現在及將來ニ臣民ニ率先シ此ノ憲章ヲ履行シテ愆ラサラムコトヲ誓フ庶幾クハ
神靈此レヲ鑒ミタマヘ

憲法發布勅語

朕國家ノ隆昌ト臣民ノ慶福トヲ以テ中心ノ欣榮トシ朕カ祖宗ニ承クルノ大權ニ依リ現在及將來ノ臣民ニ對シ此ノ不磨ノ大典ヲ宣布ス

惟フニ我カ祖我カ宗ハ我カ臣民祖先ノ協力輔翼ニ倚リ我カ帝國ヲ肇造シ以テ無窮ニ垂レタリ此レ我カ神聖ナル祖宗ノ威德ト並ニ臣民ノ忠實勇武ニシテ國ヲ愛シ公ニ殉ヒ以テ此ノ光輝アル國史ノ成跡ヲ貽シタルナリ朕我カ臣民ハ即チ祖宗ノ忠良ナル臣民ノ子孫ナルヲ回想シ其ノ朕カ意ヲ奉體シ其ノ朕カ事ヲ奬順シ相與ニ和衷協同シ益々我カ帝國ノ光榮ヲ中外ニ宣揚シ祖宗ノ遺業ヲ永久ニ鞏固ナラシムルノ希望ヲ同クシ此ノ負擔ヲ分ツニ堪フルコトヲ疑ハサルナリ

朕祖宗ノ遺烈ヲ承ケ萬世一系ノ帝位ヲ踐ミ朕カ親愛スル所ノ臣民ハ即チ朕カ祖宗ノ惠撫慈養シタマヒシ所ノ臣民ナルヲ念ヒ其ノ康福ヲ増進シ其ノ懿德良能ヲ發達セシメムコトヲ願ヒ又其ノ翼贊ニ依リ與ニ倶ニ國家ノ進運ヲ扶持セムコトヲ望ミ乃チ明治十四年十月十二日ノ詔命ヲ履踐シ茲ニ大憲ヲ制定シ朕カ率由スル所ヲ示シ朕カ後嗣及臣民及臣民ノ子孫タル者ヲシテ永遠ニ循行スル所ヲ知ラシム

國家統治ノ大權ハ朕カ之ヲ祖宗ニ承ケテ之ヲ子孫ニ傳フル所ナリ朕及朕カ子孫ハ將來此ノ憲法ノ條章ニ循ヒ之ヲ行フコトヲ愆ラサルヘシ

朕ハ我カ臣民ノ權利及財産ノ安全ヲ貴重シ及之ヲ保護シ此ノ憲法及法律ノ範圍內ニ於テ其ノ享有ヲ完全ナラシムヘキコトヲ宣言ス

帝國議會ハ明治二十三年ヲ以テ之ヲ召集シ議會開會ノ時ヲ以テ此ノ憲法ヲシテ有效ナラシムルノ期トスヘシ

將來若此ノ憲法ノ或ル條章ヲ改定スルノ必要ナル時宜ヲ見ルニ至ラハ朕及朕カ

繼統ノ子孫ハ發議ノ權ヲ執リ之ヲ議會ニ付シ議會ハ此ノ憲法ニ定メタル要件ニ依リ之ヲ議決スルノ外朕カ子孫及臣民ハ敢テ之カ紛更ヲ試ミルコトヲ得サルヘシ

朕カ在廷ノ大臣ハ朕カ爲ニ此ノ憲法ヲ施行スルノ責ニ任スヘク朕カ現在及將來ノ臣民ハ此ノ憲法ニ對シ永遠ニ從順ノ義務ヲ負フヘシ

御名御璽

明治二十二年二月十一日

內閣總理大臣 伯爵 黑田清隆
樞密院議長 伯爵 伊藤博文
外務大臣 伯爵 大隈重信
海軍大臣 伯爵 西鄉從道
農商務大臣 伯爵 井上馨
司法大臣 伯爵 山田顯義

大藏大臣兼內務大臣 伯爵 松方正義
陸軍大臣 伯爵 大山巖
文部大臣 子爵 森有禮
遞信大臣 子爵 榎本武揚

大日本帝國憲法

第一章　天皇

第一條　大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス

第二條　皇位ハ皇室典範ノ定ムル所ニ依リ皇男子孫之ヲ繼承ス

第三條　天皇ハ神聖ニシテ侵スヘカラス

第四條　天皇ハ國ノ元首ニシテ統治權ヲ總攬シ此ノ憲法ノ條規ニ依リ之ヲ行フ

第五條　天皇ハ帝國議會ノ協賛ヲ以テ立法權ヲ行フ

第六條　天皇ハ法律ヲ裁可シ其ノ公布及執行ヲ命ス

第七條　天皇ハ帝國議會ヲ召集シ其ノ開會閉會停會及衆議院ノ解散ヲ命ス

第八條　天皇ハ公共ノ安全ヲ保持シ又ハ其ノ災厄ヲ避クル爲緊急ノ必要ニ由リ帝國議會閉會ノ場合ニ於テ法律ニ代ルヘキ勅令ヲ發ス

此ノ勅令ハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出スヘシ若議會ニ於テ承諾セサルト

キハ政府ハ將來ニ向テ其ノ效力ヲ失フコトヲ公布スヘシ

第九條 天皇ハ法律ヲ執行スル爲ニ又ハ公共ノ安寧秩序ヲ保持シ及臣民ノ幸福ヲ增進スル爲ニ必要ナル命令ヲ發シ又ハ發セシム但シ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ得ス

第十條 天皇ハ行政各部ノ官制及文武官ノ俸給ヲ定メ及文武官ヲ任免ス但シ此ノ憲法又ハ他ノ法律ニ特例ヲ揭ケタルモノハ各〻其ノ條項ニ依ル

第十一條 天皇ハ陸海軍ヲ統帥ス

第十二條 天皇ハ陸海軍ノ編制及常備兵額ヲ定ム

第十三條 天皇ハ戰ヲ宣シ和ヲ講シ及諸般ノ條約ヲ締結ス

第十四條 天皇ハ戒嚴ヲ宣告ス

戒嚴ノ要件及效力ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條 天皇ハ爵位勳章及其ノ他ノ榮典ヲ授與ス

第十六條 天皇ハ大赦特赦減刑及復權ヲ命ス

第十七條 攝政ヲ置クハ皇室典範ノ定ムル所ニ依ル

攝政ハ天皇ノ名ニ於テ大權ヲ行フ

第二章 臣民權利義務

第十八條 日本臣民タルノ要件ハ法律ノ定ムル所ニ依ル

第十九條 日本臣民ハ法律命令ノ定ムル所ノ資格ニ應シ均ク文武官ニ任セラレ及其ノ他ノ公務ニ就クコトヲ得

第二十條 日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ兵役ノ義務ヲ有ス

第二十一條 日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ納稅ノ義務ヲ有ス

第二十二條 日本臣民ハ法律ノ範圍內ニ於テ居住及移轉ノ自由ヲ有ス

第二十三條 日本臣民ハ法律ニ依ルニ非スシテ逮捕監禁審問處罰ヲ受クルコトナシ

第二十四條 日本臣民ハ法律ニ定メタル裁判官ノ裁判ヲ受クルノ權ヲ奪ハルヽ

コトナシ

第二十五條 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外其ノ許諾ナクシテ住所ニ侵入セラレ及捜索セラルヽコトナシ

第二十六條 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外信書ノ秘密ヲ侵サルヽコトナシ

第二十七條 日本臣民ハ其ノ所有權ヲ侵サルヽコトナシ

公益ノ爲必要ナル處分ハ法律ノ定ムル所ニ依ル

第二十八條 日本臣民ハ安寧秩序ヲ妨ケス及臣民タルノ義務ニ背カサル限ニ於テ信教ノ自由ヲ有ス

第二十九條 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ言論著作印行集會及結社ノ自由ヲ有ス

第三十條 日本臣民ハ相當ノ敬禮ヲ守リ別ニ定ムル所ノ規程ニ從ヒ請願ヲ爲スコトヲ得

第三十一條 本章ニ掲ケタル條規ハ戰時又ハ國家事變ノ場合ニ於テ天皇大權ノ施行ヲ妨クルコトナシ

第三十二條 本章ニ掲ケタル條規ハ陸海軍ノ法令又ハ紀律ニ牴觸セサルモノニ限リ軍人ニ準行ス

第三章 帝國議會

第三十三條 帝國議會ハ貴族院衆議院ノ兩院ヲ以テ成立ス

第三十四條 貴族院ハ貴族院令ノ定ムル所ニ依リ皇族華族及勅任セラレタル議員ヲ以テ組織ス

第三十五條 衆議院ハ選擧法ノ定ムル所ニ依リ公選セラレタル議員ヲ以テ組織ス

第三十六條 何人モ同時ニ兩議院ノ議員タルコトヲ得ス

第三十七條 凡テ法律ハ帝國議會ノ協贊ヲ經ルヲ要ス

第三十八條　兩議院ハ政府ノ提出スル法律案ヲ議決シ及各〻法律案ヲ提出スルコトヲ得

第三十九條　兩議院ノ一ニ於テ否決シタル法律案ハ同會期中ニ於テ再ヒ提出スルコトヲ得ス

第四十條　兩議院ハ法律又ハ其ノ他ノ事件ニ付各〻其ノ意見ヲ政府ニ建議スルコトヲ得但シ其ノ採納ヲ得サルモノハ同會期中ニ於テ再ヒ建議スルコトヲ得ス

第四十一條　帝國議會ハ毎年之ヲ召集ス

第四十二條　帝國議會ハ三箇月ヲ以テ會期トス必要アル場合ニ於テハ勅令ヲ以テ之ヲ延長スルコトアルヘシ

第四十三條　臨時緊急ノ必要アル場合ニ於テ常會ノ外臨時會ヲ召集スヘシ

臨時會ノ會期ヲ定ムルハ勅命ニ依ル

第四十四條　帝國議會ノ開會閉會會期ノ延長及停會ハ兩院同時ニ之ヲ行フヘシ

衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ貴族院ハ同時ニ停會セラルヘシ

第四十五條　衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ勅命ヲ以テ新ニ議員ヲ選擧セシメ解散ノ日ヨリ五箇月以内ニ之ヲ召集スヘシ

第四十六條　兩議院ハ各〻其ノ總議員三分ノ一以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第四十七條　兩議院ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第四十八條　兩議院ノ會議ハ公開ス但シ政府ノ要求又ハ其ノ院ノ決議ニ依リ祕密會ト爲スコトヲ得

第四十九條　兩議院ハ各〻天皇ニ上奏スルコトヲ得

第五十條　兩議院ハ臣民ヨリ呈出スル請願書ヲ受クルコトヲ得

第五十一條　兩議院ハ此ノ憲法及議院法ニ掲クルモノヽ外内部ノ整理ニ必要ナ

ル諸規則ヲ定ムルコトヲ得

第五十二條　兩議院ノ議員ハ議院ニ於テ發言シタル意見及表決ニ付院外ニ於テ責ヲ負フコトナシ但シ議員自ラ其ノ言論ヲ演說刊行筆記又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ公布シタルトキハ一般ノ法律ニ依リ處分セラルヘシ

第五十三條　兩議院ノ議員ハ現行犯罪又ハ內亂外患ニ關ル罪ヲ除ク外會期中其ノ院ノ許諾ナクシテ逮捕セラルヽコトナシ

第五十四條　國務大臣及政府委員ハ何時タリトモ各議院ニ出席シ及發言スルコトヲ得

第四章　國務大臣及樞密顧問

第五十五條　國務各大臣ハ天皇ヲ輔弼シ其ノ責ニ任ス

凡テ法律勅令其ノ他國務ニ關ル詔勅ハ國務大臣ノ副署ヲ要ス

第五十六條　樞密顧問ハ樞密院官制ノ定ムル所ニ依リ天皇ノ諮詢ニ應ヘ重要ノ國務ヲ審議ス

第五章　司法

第五十七條　司法權ハ天皇ノ名ニ於テ法律ニ依リ裁判所之ヲ行フ

裁判所ノ構成ハ法律ヲ以テ定ム

第五十八條　裁判官ハ法律ニ定メタル資格ヲ具フル者ヲ以テ之ニ任ス

裁判官ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルノ外其ノ職ヲ免セラルヽコトナシ

懲戒ノ條規ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第五十九條　裁判ノ對審判決ハ之ヲ公開ス但シ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルトキハ法律ニ依リ又ハ裁判所ノ決議ヲ以テ對審ノ公開ヲ停ムルコトヲ得

第六十條　特別裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第六十一條　行政官廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリトスルノ訴訟ニ

シテ別ニ法律ヲ以テ定メタル行政裁判所ノ裁判ニ屬スヘキモノハ司法裁判所ニ於テ受理スルノ限ニ在ラス

第六章　會計

第六十二條　新ニ租税ヲ課シ及税率ヲ變更スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

但シ報償ニ屬スル行政上ノ手數料及其ノ他ノ收納金ハ前項ノ限ニ在ラス

國債ヲ起シ及豫算ニ定メタルモノヲ除ク外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スハ帝國議會ノ協贊ヲ經ヘシ

第六十三條　現行ノ租税ハ更ニ法律ヲ以テ之ヲ改メサル限ハ舊ニ依リ之ヲ徵收ス

第六十四條　國家ノ歳出歳入ハ毎年豫算ヲ以テ帝國議會ノ協贊ヲ經ヘシ

豫算ノ款項ニ超過シ又ハ豫算ノ外ニ生シタル支出アルトキハ後日帝國議會ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス

第六十五條　豫算ハ前ニ衆議院ニ提出スヘシ

第六十六條　皇室經費ハ現在ノ定額ニ依リ毎年國庫ヨリ之ヲ支出シ將來増額ヲ要スル場合ヲ除ク外帝國議會ノ協贊ヲ要セス

第六十七條　憲法上ノ大權ニ基ツケル既定ノ歳出及法律ノ結果ニ由リ又ハ法律上政府ノ義務ニ屬スル歳出ハ政府ノ同意ナクシテ帝國議會之ヲ廢除シ又ハ削減スルコトヲ得ス

第六十八條　特別ノ須要ニ因リ政府ハ豫メ年限ヲ定メ繼續費トシテ帝國議會ノ協贊ヲ求ムルコトヲ得

第六十九條　避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フ爲ニ又ハ豫算ノ外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ツル爲ニ豫備費ヲ設クヘシ

第七十條　公共ノ安全ヲ保持スル爲緊急ノ需用アル場合ニ於テ内外ノ情形ニ因リ政府ハ帝國議會ヲ召集スルコト能ハサルトキハ勅令ニ依リ財政上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出シ其ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス

第七十一條　帝國議會ニ於テ豫算ヲ議定セス又ハ豫算成立ニ至ラサルトキハ政府ハ前年度ノ豫算ヲ施行スヘシ

第七十二條　國家ノ歳出歳入ノ決算ハ會計檢査院之ヲ檢査確定シ政府ハ其ノ檢査報告ト倶ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

會計檢査院ノ組織及職權ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第七章　補則

第七十三條　將來此ノ憲法ノ條項ヲ改正スルノ必要アルトキハ勅命ヲ以テ議案ヲ帝國議會ノ議ニ付スヘシ

此ノ場合ニ於テ兩議院ハ各々其ノ總員三分ノ二以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開クコトヲ得ス出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ得ルニ非サレハ改正ノ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第七十四條　皇室典範ノ改正ハ帝國議會ノ議ヲ經ルヲ要セス

皇室典範ヲ以テ此ノ憲法ノ條規ヲ變更スルコトヲ得ス

第七十五條　憲法及皇室典範ハ攝政ヲ置クノ間之ヲ變更スルコトヲ得ス

第七十六條　法律規則命令又ハ何等ノ名稱ヲ用ヰタルニ拘ラス此ノ憲法ニ矛盾セサル現行ノ法令ハ總テ遵由ノ效力ヲ有ス

歳出上政府ノ義務ニ係ル現在ノ契約又ハ命令ハ總テ第六十七條ノ例ニ依ル

帝國憲法畢

天佑ヲ享有シタル我カ日本帝國ノ寶祚ハ萬世一系歷代繼承シ以テ朕カ躬ニ至ル惟フニ祖宗肇國ノ初大憲一タヒ定マリ昭ナルコト日星ノ如シ今ノ時ニ當リ宜ク遺訓ヲ明徵ニシ皇家ノ成典ヲ制立シ以テ丕基ヲ永遠ニ鞏固ニスヘシ玆ニ樞密顧問ノ諮詢ヲ經皇室典範ヲ裁定シ朕カ後嗣及子孫ヲシテ遵守スル所アラシム

御名　御璽

明治二十二年二月十一日

出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ得ルニ非サレハ改正ノ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第七十四條　皇室典範ノ改正ハ帝國議會ノ議ヲ經ルヲ要セス

皇室典範ヲ以テ此ノ憲法ノ條規ヲ變更スルコトヲ得ス

第七十五條　憲法及皇室典範ハ攝政ヲ置クノ間之ヲ變更スルコトヲ得ス

第七十六條　法律規則命令又ハ何等ノ名稱ヲ用ヰタルニ拘ラス此ノ憲法ニ矛盾セサル現行ノ法令ハ總テ遵由ノ效力ヲ有ス

歳出上政府ノ義務ニ係ル現在ノ契約又ハ命令ハ總テ第六十七條ノ例ニ依ル

皇室典範

第一章　皇位繼承

第一條　大日本國皇位ハ祖宗ノ皇統ニシテ男系ノ男子之ヲ繼承ス

第二條　皇位ハ皇長子ニ傳フ

第三條　皇長子在ラサルトキハ皇長孫ニ傳フ皇長子及其ノ子孫皆在ラサルトキハ皇次子及其ノ子孫ニ傳フ以下皆之ニ例ス

第四條　皇子孫ノ皇位ヲ繼承スルハ嫡出ヲ先ニス皇庶子孫ノ皇位ヲ繼承スルハ皇嫡子孫皆在ラサルトキニ限ル

第五條　皇子孫皆在ラサルトキハ皇兄弟及其ノ子孫ニ傳フ

第六條　皇兄弟及其ノ子孫皆在ラサルトキハ皇伯叔父及其ノ子孫ニ傳フ

第七條　皇伯叔父及其ノ子孫皆在サルトキハ其ノ以上ニ於テ最近親ノ皇族ニ傳フ

第八條 皇兄弟以上ハ同等内ニ於テ嫡ヲ先ニシ庶ヲ後ニシ長ヲ先ニシ幼ヲ後ニス

第九條 皇嗣精神若クハ身體ノ不治ノ重患アリ又ハ重大ノ事故アルトキハ皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シ前數條ニ依リ繼承ノ順序ヲ換フルコトヲ得

第二章 踐祚即位

第十條 天皇崩スルトキハ皇嗣即チ踐祚シ祖宗ノ神器ヲ承ク

第十一條 即位ノ禮及大嘗祭ハ京都ニ於テ之ヲ行フ

第十二條 踐祚ノ後元號ヲ建テ一世ノ間ニ再ヒ改メサルコト明治元年ノ定制ニ従フ

第三章 成年立后立太子

第十三條 天皇及皇太子皇太孫ハ滿十八年ヲ以テ成年トス

第十四條 前條ノ外ノ皇族ハ滿二十年ヲ以テ成年トス

第十五條 儲嗣タル皇子ヲ皇太子トス皇太子在ラサルトキハ儲嗣タル皇孫ヲ皇太孫トス

第十六條 皇后皇太子皇太孫ヲ立ツルトキハ詔書ヲ以テ之ヲ公布ス

第四章 敬稱

第十七條 天皇太皇太后皇太后皇后ノ敬稱ハ陛下トス

第十八條 皇太子皇太子妃皇太孫皇太孫妃親王親王妃內親王王王妃女王ノ敬稱ハ殿下トス

第五章 攝政

第十九條 天皇未タ成年ニ達セサルトキハ攝政ヲ置ク

天皇久キニ亘ルノ故障ニ由リ大政ヲ親ラスルコト能ハサルトキハ皇族會議及

樞密顧問ノ議ヲ經テ攝政ヲ置ク

第二十條　攝政ハ成年ニ達シタル皇太子又ハ皇太孫之ニ任ス

第二十一條　皇太子皇太孫アラサルカ又ハ未タ成年ニ達セサルトキハ左ノ順序ニ依リ攝政ニ任ス

第一　親王及王

第二　皇后

第三　皇太后

第四　太皇太后

第五　内親王及女王

第二十二條　皇族男子ノ攝政ニ任スルハ皇位繼承ノ順序ニ從フ其ノ女子ニ於ケルモ亦之ニ準ス

第二十三條　皇族女子ノ攝政ニ任スルハ其ノ配偶アラサル者ニ限ル

第二十四條　最近親ノ皇族未タ成年ニ達セサルカ又ハ其ノ他ノ事故ニ由リ他ノ

皇族攝政ニ任シタルトキハ後來最近親ノ皇族成年ニ達シ又ハ其ノ事故既ニ除クト雖皇太子及皇太孫ニ對スルノ外其任ヲ讓ルコトナシ

第二十五條　攝政又ハ攝政タルヘキ者精神若ハ身體ノ重患アリ又ハ重大ノ事故アルトキハ皇族會議及樞密顧問ノ議ヲ經テ其順序ヲ換フルコトヲ得

第六章　太傅

第二十六條　天皇未タ成年ニ達セサルトキハ太傅ヲ置キ保育ヲ掌ラシム

第二十七條　先帝遺命ヲ以テ太傅ヲ任セサリシトキハ攝政ヨリ皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シ之ヲ選任ス

第二十八條　太傅ハ攝政及其ノ子孫之ニ任スルコトヲ得ス

第二十九條　攝政ハ皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シタル後ニ非サレハ太傅ヲ退職セシムルコトヲ得ス

第七章　皇族

第三十條　皇族ト稱フルハ太皇太后皇太后皇后皇太子皇太子妃皇太孫皇太孫妃親王親王妃内親王王王妃女王ヲ謂フ

第三十一條　皇子ヨリ皇玄孫ニ至ルマテハ男ヲ親王女ヲ内親王トシ五世以下ハ男ヲ王女ヲ女王トス

第三十二條　天皇支系ヨリ入テ大統ヲ承クルトキハ皇兄弟姉妹ノ王女王タル者ニ特ニ親王内親王ノ號ヲ宣賜ス

第三十三條　皇族ノ誕生命名婚嫁薨去ハ宮内大臣之ヲ公告ス

第三十四條　皇統譜及前條ニ關ル記錄ハ圖書寮ニ於テ尙藏ス

第三十五條　皇族ハ天皇之ヲ監督ス

第三十六條　攝政在任ノ時ハ前條ノ事ヲ攝行ス

第三十七條　皇族男女幼年ニシテ父ナキ者ハ宮内ノ官寮ニ命シ保育ヲ掌ラシム事宜ニ依リ天皇ハ其父母ノ選擧セル後見人ヲ認可シ又ハ之ヲ勅選スヘシ

第三十八條　皇族ノ後見人ハ成年以上ノ皇族ニ限ル

第三十九條　皇族ノ婚嫁ハ同族又ハ勅旨ニ由リ特ニ認許セラレタル華族ニ限ル

第四十條　皇族ノ婚嫁ハ勅許ニ由ル

第四十一條　皇族ノ婚嫁ヲ許可スルノ勅書ハ宮内大臣之ニ副署ス

第四十二條　皇族ハ養子ヲ爲スコトヲ得ス

第四十三條　皇族國彊ノ外ニ旅行セムトスルトキハ勅許ヲ請フヘシ

第四十四條　皇族女子ノ臣籍ニ嫁シタル者ハ皇族ノ列ニ在ラス但シ特旨ニ依リ仍内親王女王ノ稱ヲ有セシムルコトアルヘシ

第八章　世傳御料

第四十五條　土地物件ノ世傳御料ト定メタルモノハ分割讓與スルコトヲ得ス

第四十六條　世傳御料ニ編入スル土地物件ハ樞密顧問ニ諮詢シ勅書ヲ以テ之ヲ定メ宮內大臣之ヲ公告ス

第九章　皇室經費

第四十七條　皇室諸般ノ經費ハ特ニ常額ヲ定メ國庫ヨリ支出セシム

第四十八條　皇室經費ノ豫算決算檢查及其ノ他ノ規則ハ皇室會計法ノ定ムル所ニ依ル

第十章　皇族訴訟及懲戒

第四十九條　皇族相互ノ民事ノ訴訟ハ勅旨ニ依リ宮內省ニ於テ裁判員ヲ命シ裁判セシメ勅裁ヲ經テ之ヲ執行ス

第五十條　人民ヨリ皇族ニ對スル民事ノ訴訟ハ東京控訴院ニ於テ之ヲ裁判ス但シ皇族ハ代人ヲ以テ訴訟ニ當ラシメ自ラ訟廷ニ出ルヲ要セス

第五十一條　皇族ハ勅許ヲ得ルニ非サレハ勾引シ又ハ裁判所ニ召喚スルコトヲ得ス

第五十二條　皇族其品位ヲ辱ムルノ所行アリ又ハ皇室ニ對シ忠順ヲ缺クトキハ勅旨ヲ以テ之ヲ懲戒シ其ノ重キ者ハ皇族特權ノ一部又ハ全部ヲ停止シ若ハ剝奪スヘシ

第五十三條　皇族蕩産ノ所行アルトキハ勅旨ヲ以テ治産ノ禁ヲ宣告シ其ノ管財者ヲ任スヘシ

第五十四條　前二條ハ皇族會議ニ諮詢シタル後之ヲ勅裁ス

第十一章　皇族會議

第五十五條　皇族會議ハ成年以上ノ皇族男子ヲ以テ組織シ內大臣樞密院議長宮內大臣司法大臣大審院長ヲ以テ參列セシム

第五十六條　天皇ハ皇族會議ニ親臨シ又ハ皇族中ノ一員ニ命シテ議長タラシム

第十二章　補則

第五十七條　現在ノ皇族五世以下親王ノ號ヲ宣賜シタル者ハ舊ニ依ル

第五十八條　皇位繼承ノ順序ハ總テ實系ニ依ル現在皇養子皇猶子又ハ他ノ繼嗣タルノ故ヲ以テ之ヲ混スルコトナシ

第五十九條　親王內親王王女王ノ品位ハ之ヲ廢ス

第六十條　親王ノ家格及其ノ他此ノ典範ニ牴觸スル例規ハ總テ之ヲ廢ス

第六十一條　皇族ノ財產歲費及諸規則ハ別ニ之ヲ定ムヘシ

第六十二條　將來此ノ典範ノ條項ヲ改正シ又ハ增補スヘキノ必要アルニ當テハ皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シテ之ヲ勅定スヘシ

皇室典範畢

朕茲ニ樞密顧問ニ諮詢シ皇室婚嫁令ヲ定メ皇子孫ヲシテ循行スル所アラシム

御名御璽

明治三十三年四月二十五日

宮內大臣　子爵　田中光顯

皇室婚嫁令

第一章　大婚

第一條　大婚ノ禮ハ天皇滿十七年ニ達シタル後ニ於テ之ヲ行フ

第二條　天皇皇后ヲ立ツルハ皇族又ハ特ニ定ムル華族ノ女子滿十五年以上ノ者ニ限ル

第三條　大婚ノ約ヲ成ストキハ之ヲ賢所皇靈殿神殿ニ奉告シ奉幣使ヲ神宮神武天皇山陵竝先帝先后ノ山陵ニ發遣ス

第四條　大婚ノ約成リタルトキハ宮内大臣之ヲ公告ス

第五條　大婚ノ禮ヲ行フ期日ハ宮内大臣之ヲ公告ス

第六條　大婚ノ禮ヲ行フ當日之ヲ賢所皇靈殿神殿ニ奉告ス

第七條　大婚ノ禮ハ別ニ定メタル式ニ依リ賢所大前ニ於テ之ヲ行フ

第八條　立后ノ詔書ハ大婚ノ禮ヲ行フ當日之ヲ公布ス

第九條　大婚ノ禮訖リタルトキハ天皇皇后ト共ニ皇靈殿神殿ニ謁ス

第十條　大婚ノ禮訖リタルトキハ天皇皇后ト共ニ太皇太后皇太后ニ謁ス

第十一條　大婚ノ禮訖リタルトキハ天皇皇后ト共ニ宮中ニ於テ饗宴ヲ賜フ

第十二條　大婚ノ禮ヲ行ヒタルトキハ天皇皇后ト共ニ神宮神武天皇山陵並先帝先后ノ山陵ニ謁ス

第十三條　立后ノ詔書公布セラレタルトキハ圖書頭其ノ事項ヲ皇統譜ニ登錄ス大婚ニ關スル記錄ハ圖書寮ニ於テ之ヲ尙藏ス

第十四條　諒闇中ハ大婚ノ禮ヲ行ハス

第二章　皇族婚嫁

第十五條　皇族婚嫁ノ勅許ハ其ノ約ヲ成ス前ニ於テ之ヲ奏請スヘシ

第十六條　皇太子皇太孫親王王結婚ノ禮ハ別ニ定メタル式ニ依リ賢所大前ニ於テ之ヲ行フ

第十七條　皇太子皇太孫親王王結婚ノ禮訖リタルトキハ妃ト共ニ天皇皇后太皇太后皇太后ニ朝見ス

第十八條　皇太子皇太孫ノ結婚ニハ第三條第四條第五條第六條第九條第十一條第十二條ノ規定ヲ準用ス

第十九條　親王ノ結婚ニハ第五條第九條ノ規定王ノ結婚ニハ第九條ノ規定ヲ準用ス

第二十條　皇族ノ婚嫁ハ其ノ當日宮內大臣之ヲ公告ス

第二十一條　皇族ノ婚嫁ハ男子滿十七年女子滿十五年ニ達スルニ非サレハ之ヲ成スコトヲ得ス

第二十二條　皇族ノ婚嫁ハ直系親族又ハ三親等內ノ傍系血族ノ間之ヲ成スコトヲ得ス

第二十三條　皇族ノ婚嫁ハ諒闇中及皇族直系尊屬ノ喪中之ヲ成スコトヲ得ス

第二十四條　皇族ノ婚嫁皇室典範第三十九條第四十條ニ違フトキハ無效トス

第二十五條　皇族ノ離婚ハ勅許ヲ經ルコトヲ要ス之ニ違フトキハ無效トス

第二十六條　皇族ノ婚嫁ニ關スル事項ハ圖書頭之ヲ皇統譜ニ登錄ス

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ議院法ヲ裁可シ之ヲ公布セシメ併セテ貴族院及衆議院成立ノ日ヨリ各々本法ニ依リ施行スヘキコトヲ命ス

御名御璽

明治二十二年二月十一日

法律第二號

議院法

第一章　帝國議會ノ召集成立及開會

第一條　帝國議會召集ノ勅諭ハ集會ノ期日ヲ定メ少クトモ四十日前ニ之ヲ發布スヘシ

第二條　議員ハ召集ノ勅諭ニ指定シタル期日ニ於テ各議院ノ會堂ニ集會スヘシ

第三條　衆議院ノ議長副議長ハ其ノ院ニ於テ各〻三名ノ候補者ヲ選擧セシメ其ノ中ヨリ之ヲ勅任スヘシ

議長副議長ノ勅任セラルヽマテハ書記官長議長ノ職務ヲ行フヘシ

第四條　各議院ハ抽籤法ニ依リ總議員ヲ數部ニ分割シ毎部部長一名ヲ部員中ニ於テ互選スヘシ

第五條　兩議院成立シタル後勅命ヲ以テ帝國議會開會ノ日ヲ定メ兩院議員ヲ貴族院ニ會合セシメ開院式ヲ行フヘシ

第六條　前條ノ場合ニ於テ貴族院議長ハ議長ノ職務ヲ行フヘシ

第二章　議長書記官及經費

第七條　各議院ノ議長副議長ハ各一員トス

第八條　衆議院ノ議長副議長ノ任期ハ議員ノ任期ニ依ル

第九條　衆議院ノ議長副議長辭職又ハ其ノ他ノ事故ニ由リ闕位トナリタルトキハ繼任者ノ任期ハ仍前任者ノ任期ニ依ル

第十條　各議院ノ議長ハ其ノ議院ノ秩序ヲ保持シ議事ヲ整理シ院外ニ對シ議院ヲ代表ス

第十一條　議長ハ議會閉會ノ間ニ於テ仍其ノ議院ノ事務ヲ指揮ス

第十二條　議長ハ常任委員會及特別委員會ニ臨席シ發言スルコトヲ得但シ表決ノ數ニ預カラス

第十三條　各議院ニ於テ議長故障アルトキハ副議長之ヲ代理ス

第十四條　各議院ニ於テ議長副議長俱ニ故障アルトキハ假議長ヲ選擧シ議長ノ職務ヲ行ハシムヘシ

第十五條　各議院ノ議長副議長ハ任期滿限ニ達スルモ後任者ノ勅任セラルヽマテハ仍其ノ職務ヲ繼續スヘシ

第十六條　各議院ニ書記官長一人書記官數人ヲ置ク
書記官長ハ勅任トシ書記官ハ奏任トス

第十七條　書記官長ハ議長ノ指揮ニ依リ書記官ノ事務ヲ提理シ公文ニ署名ス
書記官ハ議事錄及其ノ他ノ文書案ヲ作リ事務ヲ掌理ス
書記官ノ外他ノ必要ナル職員ハ書記官長之ヲ任ス

第十八條　兩議院ノ經費ハ國庫ヨリ之ヲ支出ス

第三章　議長副議長及議員歲費

第十九條　各議院ノ議長ハ歲費トシテ五千圓副議長ハ三千圓貴族院ノ被選及勅

任議員及衆議院ノ議員ハ二千圓ヲ受ケ別ニ定ムル所ノ規則ニ從ヒ旅費ヲ受ク
但シ召集ニ應セサル者ハ歳費ヲ受クルコトヲ得ス（三十二年法律第百號ヲ以テ本條第一項第二項改正三十二年七月一日ヨリ施行ス）
議長副議長及議員ハ歳費ヲ辭スルコトヲ得
官吏ニシテ議員タル者ハ歳費ヲ受クルコトヲ得ス
第二十五條ノ場合ニ於テハ第一項歳費ノ外議院ノ定ムル所ニ依リ一日五圓ヨリ多カラサル手當ヲ受ク

第四章　委員

第二十條　各議院ノ委員ハ全院委員常任委員及特別委員ノ三類トス
全院委員ハ議院ノ全員ヲ以テ委員ト爲スモノトス
常任委員ハ事務ノ必要ニ依リ之ヲ數科ニ分割シ負擔ノ事件ヲ審査スル爲ニ各部ニ於テ同數ノ委員ヲ總議員中ヨリ選擧シ一會期中其ノ任ニ在ルモノトス
特別委員ハ一事件ヲ審査スル爲ニ議院ノ選擧ヲ以テ特ニ付託ヲ受クルモノトス

第二十一條　全院委員長ハ一會期コトニ開會ノ始ニ於テ之ヲ選擧ス
常任委員長及特別委員長ハ各委員會ニ於テ之ヲ互選ス

第二十二條　全院委員會ハ議院三分ノ一以上常任委員會及特別委員會ハ其ノ委員半數以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第二十三條　常任委員會及特別委員會ハ議員ノ外傍聽ヲ禁ス但シ委員會ノ決議ニ由リ議員ノ傍聽ヲ禁スルコトヲ得

第二十四條　各委員長ハ委員會ノ經過及結果ヲ議院ニ報告スヘシ

第二十五條　各議院ハ政府ノ要求ニ依リ又ハ其ノ同意ヲ經テ議會閉會ノ間委員ヲシテ議案ノ審査ヲ繼續セシムルコトヲ得

第五章　會議

第二十六條　各議院ノ議長ハ議事日程ヲ定メテ之ヲ議院ニ報告ス
議事日程ハ政府ヨリ提出シタル議案ヲ先ニスヘシ但シ他ノ議事緊急ノ場合ニ於テ政府ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス
第二十七條　法律ノ議案ハ三讀會ヲ經テ之ヲ議決スヘシ但シ政府ノ要求若クハ議員十人以上ノ要求ニ由リ議院ニ於テ出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ可決シタルトキハ三讀會ノ順序ヲ省略スルコトヲ得
第二十八條　政府ヨリ提出シタル議案ハ委員ノ審査ヲ經スシテ之ヲ議決スルコトヲ得ス但シ緊急ノ場合ニ於テ政府ノ要求ニ由ルモノハ此ノ限ニ在ラス
第二十九條　凡テ議案ヲ發議シ及議院ノ會議ニ於テ議案ニ對シ修正ノ動議ヲ發スルモノハ二十人以上ノ贊成アルニ非サレハ議題ト爲スコトヲ得ス
第三十條　政府ハ何時タリトモ既ニ提出シタル議案ヲ修正シ又ハ撤回スルコトヲ得
第三十一條　凡テ議案ハ最後ニ議決シタル議院ノ議長ヨリ國務大臣ヲ經由シテ

之ヲ奏上スヘシ
但シ兩議院ノ一ニ於テ提出シタル議案ニシテ他ノ議院ニ於テ否決シタルトキハ第五十四條第二項ノ規定ニ依ル
第三十二條　兩議院ノ議決ヲ經テ奏上シタル議案ニシテ裁可セラルヽモノハ次ノ會期マテニ公布セラルヘシ

第六章　停會閉會

第三十三條　政府ハ何時タリトモ十五日以内ニ於テ議院ノ停會ヲ命スルコトヲ得
議院停會ノ後再ヒ開會シタルトキハ前會ノ議事ヲ繼續スヘシ
第三十四條　衆議院ノ解散ニ依リ貴族院ニ停會ヲ命シタル場合ニ於テハ前條第二項ノ例ニ依ラス
第三十五條　帝國議會閉會ノ場合ニ於テ議案建議請願ノ議決ニ至ラサルモノハ

後會ニ繼續セス但シ第二十五條ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第三十六條　閉會ハ勅命ニ由リ兩議院合會ニ於テ之ヲ擧行スヘシ

第七章　祕密會議

第三十七條　各議院ノ會議ハ左ノ場合ニ於テ公開ヲ停ムルコトヲ得

一　議長又ハ議員十人以上ノ發議ニ由リ議院之ヲ可決シタルトキ

二　政府ヨリ要求ヲ受ケタルトキ

第三十八條　議長又ハ議員十人以上ヨリ祕密會議ヲ發議シタルトキハ議長ハ直ニ傍聽人ヲ退去セシメ討論ヲ用ヰスシテ可否ノ決ヲ取ルヘシ

第三十九條　祕密會議ハ刊行スルコトヲ許サス

第八章　豫算案ノ議定

第四十條　政府ヨリ豫算案ヲ衆議院ニ提出シタルトキハ豫算委員ハ其ノ院ニ於テ受取リタル日ヨリ十五日以内ニ審査ヲ終リ議院ニ報告スヘシ

第四十一條　豫算案ニ就キ議院ノ會議ニ於テ修正ノ動議ヲ發スルモノハ三十人以上ノ贊成アルニ非サレハ議題ト爲スコトヲ得ス

第九章　國務大臣及政府委員

第四十二條　國務大臣及政府委員ノ發言ハ何時タリトモ之ヲ許スヘシ但シ之カ爲ニ議員ノ演說ヲ中止セシムルコトヲ得ス

第四十三條　議院ニ於テ議案ヲ委員ニ付シタルトキハ國務大臣及政府委員ハ何時タリトモ委員會ニ出席シ意見ヲ述フルコトヲ得

第四十四條　委員會ハ議長ヲ經由シテ政府委員ノ說明ヲ求ムルコトヲ得

第四十五條　國務大臣及政府委員ハ議員タル者ヲ除ク外議院ノ會議ニ於テ表決ノ數ニ預カラス

第四十六條　常任委員會又ハ特別委員會ヲ開クトキハ毎會委員長ヨリ其ノ主任

ノ國務大臣及政府委員ニ報知スヘシ

第四十七條　議事日程及議事ニ關ル報告ハ議員ニ分配スルト同時ニ之ヲ國務大臣及政府委員ニ送付スヘシ

第十章　質問

第四十八條　兩議院ノ議員政府ニ對シ質問ヲ爲サムトスルトキハ三十人以上ノ贊成者アルヲ要ス

質問ハ簡明ナル主意書ヲ作リ贊成者ト共ニ連署シテ之ヲ議長ニ提出スヘシ

第四十九條　質問主意書ハ議長之ヲ政府ニ轉送シ國務大臣ハ直ニ答辯ヲ爲シ又ハ答辯スヘキ期日ヲ定メ若答辯ヲ爲サヽルトキハ其ノ理由ヲ示明スヘシ

第五十條　國務大臣ノ答辯ヲ得又ハ答辯ヲ得サルトキハ質問ノ事件ニ付議員ハ建議ノ動議ヲ爲スコトヲ得

第十一章　上奏及建議

第五十一條　各議院上奏セムトスルトキハ文書ヲ奉呈シ又ハ議長ヲ以テ總代トシ謁見ヲ請ヒ之ヲ奉呈スルコトヲ得

各議院ノ建議ハ文書ヲ以テ政府ニ呈出スヘシ

第五十二條　各議院ニ於テ上奏又ハ建議ノ動議ハ三十人以上ノ贊成アルニ非サレハ議題ト爲スコトヲ得ス

第十二章　兩議院關係

第五十三條　豫算ヲ除ク外政府ノ議案ヲ付スルハ兩議院ノ內何レヲ先ニスルモ便宜ニ依ル

第五十四條　甲議院ニ於テ政府ノ議案ヲ可決シ又ハ修正シテ議決シタルトキハ乙議院ニ之ヲ移スヘシ乙議院ニ於テ甲議院ノ議決ニ同意シ又ハ否決シタルト

キハ之ヲ奏上スルト同時ニ甲議院ニ通知スヘシ
乙議院ニ於テ甲議院ノ提出シタル議案ヲ否決シタルトキハ之ヲ甲議院ニ通知スヘシ

第五十五條　乙議院ニ於テ甲議院ヨリ移シタル議案ニ對シ之ヲ修正シタルトキハ之ヲ甲議院ニ回付スヘシ甲議院ニ於テ乙議院ノ修正ニ同意シタルトキハ之ヲ奏上スルト同時ニ乙議院ニ通知スヘシ若之ニ同意セサルトキハ兩院協議會ヲ開クコトヲ求ムヘシ

甲議院ヨリ協議會ヲ開クコトヲ求ムルトキハ乙議院ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第五十六條　兩院協議會ハ兩議院ヨリ各々十人以下同數ノ委員ヲ選擧シ會同セシム委員ノ協議案成立スルトキハ議案ヲ政府ヨリ受取リ又ハ提出シタル甲議院ニ於テ先ツ之ヲ議シ次ニ乙議院ニ移スヘシ

協議會ニ於テ成立シタル成案ニ對シテハ更ニ修正ノ動議ヲ爲スコトヲ許サス

第五十七條　國務大臣政府委員及各議院ノ議長ハ何時タリトモ兩院協議會ニ出席シテ意見ヲ述ルコトヲ得

第五十八條　兩院協議會ハ傍聽ヲ許サス

第五十九條　兩院協議會ニ於テ可否ノ決ヲ取ルハ無名投票ヲ用ヰ可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第六十條　兩院協議會ノ議長ハ兩議院協議委員ニ於テ各々一員ヲ互選シ毎會更代シテ席ニ當ラシムヘシ其ノ初會ニ於ケル議長ハ抽籤法ヲ以テ之ヲ定ム

第六十一條　本章ニ定ムル所ノ外兩議院交渉事務ノ規程ハ其ノ協議ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第十三章　請願

第六十二條　各議院ニ呈出スル人民ノ請願書ハ議員ノ紹介ニ依リ議院之ヲ受取ルヘシ

第六十三條　請願書ハ各議院ニ於テ請願委員ニ付シ之ヲ審査セシム

請願委員請願書ヲ以テ規程ニ合ハスト認ムルトキハ議長ハ紹介ノ議員ヲ經テ之ヲ却下スヘシ

第六十四條　請願委員ハ請願文書表ヲ作リ其ノ要領ヲ錄シ毎週一回議院ニ報告スヘシ

請願委員特別ノ報告ニ依レル要求又ハ議員三十人以上ノ要求アルトキハ各議院ハ其ノ請願事件ヲ會議ニ付スヘシ

第六十五條　各議院ニ於テ請願ノ採擇スヘキコトヲ議決シタルトキハ意見書ヲ附シ其ノ請願書ヲ政府ニ送付シ事宜ニ依リ報告ヲ求ムルコトヲ得

第六十六條　法律ニ依リ法人ト認メラレタル者ヲ除ク外總代ノ名義ヲ以テスル請願ハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ス

第六十七條　各議院ハ憲法ヲ變更スルノ請願ヲ受クルコトヲ得ス

第六十八條　請願書ハ總テ哀願ノ體式ヲ用ヰヘシ若請願ノ名義ニ依ラス若ハ其ノ體式ニ違フモノハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ス

第六十九條　請願書ニシテ皇室ニ對シ不敬ノ語ヲ用ヰ政府又ハ議院ニ對シ侮辱ノ語ヲ用ヰルモノハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ス

第七十條　各議院ハ司法及行政裁判ニ干預スルノ請願ヲ受クルコトヲ得ス

第七十一條　各議院ハ各別ニ請願ヲ受ケ互ニ相干預セス

第十四章　議院ト人民及官廳地方議會トノ關係

第七十二條　各議院ハ人民ニ向テ告示ヲ發スルコトヲ得ス

第七十三條　各議院ハ審査ノ爲ニ人民ヲ召喚シ及議員ヲ派出スルコトヲ得ス

第七十四條　各議院ヨリ審査ノ爲ニ政府ニ向テ必要ナル報告又ハ文書ヲ求ムルトキハ政府ハ祕密ニ渉ルモノヲ除ク外其ノ求ニ應スヘシ

第七十五條　各議院ハ國務大臣及政府委員ノ外他ノ官廳及地方議會ニ向テ照會往復スルコトヲ得ス

第十五章　退職及議員資格ノ異議

第七十六條　衆議院ノ議員ニシテ貴族院議員ニ任セラレ又ハ法律ニ依リ議員タルコトヲ得サル職務ニ任セラレタルトキハ退職者トス

第七十七條　衆議院ノ議員ニシテ選擧法ニ記載シタル被選ノ資格ヲ失ヒタルトキハ退職者トス

第七十八條　衆議院ニ於テ議員ノ資格ニ付異議ヲ生シタルトキハ特ニ委員ヲ設ケ時日ヲ期シ之ヲ審査セシメ其ノ報告ヲ待テ之ヲ議決スヘシ

第七十九條　裁判所ニ於テ當選訴訟ノ裁判手續ヲ爲シタルモノハ衆議院ニ於テ同一事件ニ付審査スルコトヲ得ス

第八十條　議員其ノ資格ナキコトヲ證明セラルヽニ至ルマテハ議院ニ於テ位列及發言ノ權ヲ失ハス但シ自身ノ資格審査ニ關ル會議ニ對シテハ辯明スルコトヲ得ルモ其ノ表決ニ預カルコトヲ得ス

第十六章　請暇辭職及補闕

第八十一條　各議院ノ議長ハ一週間ニ超エサル議員ノ請暇ヲ許可スルコトヲ得其ノ一週間ヲ超ユルモノハ議院ニ於テ之ヲ許可ス期限ナキモノハ之ヲ許可スルコトヲ得ス

第八十二條　各議院ノ議員ハ正當ノ理由ヲ以テ議長ニ屆出スシテ會議又ハ委員會ニ闕席スルコトヲ得ス

第八十三條　衆議院ハ議員ノ辭職ヲ許可スルコトヲ得

第八十四條　何等ノ事由ニ拘ラス衆議院議員ニ闕員ヲ生シタルトキハ議長ヨリ內務大臣ニ通牒シ補闕選擧ヲ求ムヘシ

第十七章　紀律及警察

第八十五條　各議院開會中其ノ紀律ヲ保持セムカ爲內部警察ノ權ハ此ノ法律及

各議院ニ於テ定ムル所ノ規則ニ從ヒ議長之ヲ施行ス

第八十六條　各議院ニ於テ要スル所ノ警察官吏ハ政府之ヲ派出シ議長ノ指揮ヲ受ケシム

第八十七條　會議中議員此ノ法律若ハ議事規則ニ違ヒ其他議場ノ秩序ヲ紊ルトキハ議長ハ之ヲ警戒シ又ハ制止シ又ハ發言ヲ取消サシム命ニ從ハサルトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ終ルマテ發言ヲ禁止シ又ハ議場ノ外ニ退去セシムルコトヲ得

第八十八條　議場騒擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ツルコトヲ得

第八十九條　傍聽人議場ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議長ハ之ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ於テハ之ヲ警察官廳ニ引渡サシムルコトヲ得

傍聽席騒擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシムルコトヲ得

第九十條　議場ノ秩序ヲ紊ル者アルトキハ國務大臣政府委員及議員ハ議長ノ注意ヲ喚起スルコトヲ得

第九十一條　各議院ニ於テ皇室ニ對シ不敬ノ言語論説ヲ爲スコトヲ得ス

第九十二條　各議院ニ於テ無禮ノ語ヲ用フルコトヲ得ス及他人ノ身上ニ渉リ言論スルコトヲ得ス

第九十三條　議院又ハ委員會ニ於テ誹毀侮辱ヲ被リタル議員ハ之ヲ議院ニ訴ヘテ處分ヲ求ムヘシ私ニ相報復スルコトヲ得ス

第十八章　懲罰

第九十四條　各議院ハ其ノ議員ニ對シ懲罰ノ權ヲ有ス

第九十五條　各議院ニ於テ懲罰事犯ヲ審査スル爲ニ懲罰委員ヲ設ク

懲罰事犯アルトキハ議長ハ先ツ之ヲ委員ニ付シ審査セシメ議院ノ議ヲ經テ之ヲ宣告ス

各委員會又ハ各部ニ於テ懲罰事犯アルトキハ委員長又ハ部長ハ之ヲ議長ニ報

告シ處分ヲ求ムヘシ

第九十六條　懲罰ハ左ノ如シ

一　公開シタル議場ニ於テ譴責ス

二　公開シタル議場ニ於テ適當ノ謝辭ヲ表セシム

三　一定ノ時間出席ヲ停止ス

四　除名

衆議院ニ於テ除名ハ出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ之ヲ決スヘシ

第九十七條　衆議院ハ除名ノ議員再選ニ當ル者ヲ拒ムコトヲ得ス

第九十八條　議員ハ二十人以上ノ賛成ヲ以テ懲罰ノ動議ヲ為スコトヲ得

懲罰ノ動議ハ事犯アリシ後三日以內ニ之ヲ為スヘシ

第九十九條　議員正當ノ理由ナクシテ勅諭ニ指定シタル期日後一週間內ニ召集ニ應セサルニ由リ又ハ正當ノ理由ナクシテ會議又ハ委員會ニ闕席スルニ由リ若ハ請暇ノ期限ヲ過キタルニ由リ議長ヨリ特ニ招狀ヲ發シ其招狀ヲ受ケタル後一週間內ニ仍故ナク出席セサル者ハ貴族院ニ於テハ其出席ヲ停止シ上奏シテ勅裁ヲ請フヘク衆議院ニ於テハ之ヲ除名スヘシ

議院法畢

衆議院議員選擧法

第一章　選擧ニ關スル區域

第一條　衆議院議員ハ各選擧區ニ於テ之ヲ選擧ス

選擧區及各選擧區ニ於テ選擧スヘキ議員ノ數ハ別表ヲ以テ之ヲ定ム

第二條　投票區ハ市町村ノ區域ニ依ル

特別ノ事情アル市町村ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ二箇以上ノ投票區ヲ設ケ又ハ數町村ノ區域ニ依リ一投票區ヲ設クルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ投票ニ關シ本法ノ規定ヲ適用シ難キトキハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第三條　町村組合ニシテ町村ノ事務ノ全部ヲ共同處理スルモノハ之ヲ一町村其ノ組合管理者ハ之ヲ町村長ト看做ス

第四條　市町村長ハ投票管理者トナリ投票ニ關スル事務ヲ擔任ス

第五條　開票區ハ郡市ノ區域ニ依ル
郡市長ハ開票管理者トナリ開票ニ關スル事務ヲ擔任ス

第六條　地方長官ハ選擧長トナリ選擧ニ關スル事務ヲ統轄ス

第七條　行政區畫ノ變更ニ因リ選擧區ニ異動ヲ生スルモ現任議員ハ其ノ職ヲ失フコトナシ

第二章　選擧權及被選擧權

第八條　左ノ要件ヲ具備スル者ハ選擧權ヲ有ス

一　帝國臣民タル男子ニシテ年齡滿二十五年以上ノ者

二　選擧人名簿調製ノ期日前滿一年以上其ノ選擧區内ニ住所ヲ有シ仍引續キ有スル者

三　選擧人名簿調製ノ期日前滿一年以上地租十圓以上又ハ滿二年以上地租以外ノ直接國稅十圓以上若ハ地租ト其ノ他ノ直接國稅トヲ通シテ十圓以上ヲ納メ仍引續キ納ムル者
家督相續ニ依リ財產ヲ取得シタル者ハ其ノ財產ニ付被相續人ノ爲シタル納稅ヲ以テ其ノ者ノ納稅シタルモノト看做ス

第九條　前條ノ要件中其ノ年限ニ關スルモノハ行政區畫變更ノ爲中斷セラルヽコトナシ

第十條　帝國臣民タル男子ニシテ年齡滿三十年以上ノ者ハ被選擧權ヲ有ス

第十一條　左ニ掲クル者ハ選擧權及被選擧權ヲ有セス

一　禁治產者及準禁治產者

二　身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者及家資分散若ハ破產ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄ノ者

三　剝奪公權者及停止公權者

四　禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其ノ裁判確定スルニ至ル迄ノ者

第十二條　華族ノ戸主ハ選擧權及被選擧權ヲ有セス

陸海軍人ニシテ現役中ノ者及戰時若ハ事變ニ際シ召集中ノ者又ハ官立公立私立學校ノ學生、生徒亦前項ニ同シ

第十三條　神官、神職、僧侶其ノ他諸宗教師、小學校教員ハ被選擧權ヲ有セス其ノ之ヲ罷メタル後三箇月ヲ經過セサル者亦同シ

政府ノ爲請負ヲ爲ス者又ハ政府ノ爲請負ヲ爲ス法人ノ役員ハ被選擧權ヲ有セス

第十四條　選擧事務ニ關係アル官吏、吏員ハ其ノ選擧區內ニ於テ被選擧權ヲ有セス其ノ之ヲ罷メタル後三箇月ヲ經過セサル者亦同シ

第十五條　宮內官、判事、檢事、行政裁判所長官、行政裁判所評定官、會計檢査官、收稅官吏及警察官吏ハ被選擧權ヲ有セス

第十六條　前條ノ外ノ官吏ハ其ノ職務ニ妨ナキ限ハ議員ト相兼ヌルコトヲ得

第十七條　府縣會議員ハ衆議院議員ト相兼ヌルコトヲ得ス

第三章　選擧人名簿

第十八條　町村長ハ毎年十月一日ノ現在ニ依リ其ノ町村內ニ住所ヲ有スル者ノ選擧資格ヲ調査シ選擧人名簿正副二本ヲ調製シ十月十五日迄ニ郡長ニ送付スヘシ

郡長ハ町村長ヨリ送付シタル名簿ヲ調査シ其ノ修正スヘキモノハ修正ヲ加ヘ副本ハ十月三十一日迄ニ之ヲ町村長ニ返付スヘシ

市長ハ毎年十月一日ノ現在ニ依リ其ノ市內ニ住所ヲ有スル者ノ選擧資格ヲ調査シ十月三十一日迄ニ選擧人名簿ヲ調製スヘシ

選擧人名簿ニハ選擧人ノ氏名、官位、職業、身分、住所、生年月、納稅額及納稅地等ヲ記載スヘシ

第十九條　選擧人其ノ住所ヲ有スル市町村外ニ於テ直接國稅ヲ納ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ證明ヲ得テ十月五日迄ニ其ノ住所地ノ市町村長ニ屆

出ツヘシ其ノ期日迄ニ屆出ヲ爲サヽルトキハ其ノ納税ハ選擧人名簿ニ記載セラルヘキ要件ニ算入セス

第二十條　郡長、市町村長ハ十一月五日ヨリ十五日間其ノ廳又ハ地方長官ノ許可ヲ得タル場所ニ於テ選擧人名簿ヲ縱覽ニ供スヘシ

第二十一條　選擧人選擧人名簿ニ脱漏又ハ誤載アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ理由書及證憑ヲ具ヘテ之ヲ郡市長ニ申立ツルコトヲ得

第二十二條　選擧人正當ノ事故ニ因リ第十九條ノ手續ヲ爲スコト能ハスシテ選擧人名簿ニ登錄セラレサルトキ亦前條ノ例ニ依ル

第二十三條　縱覽期限ヲ經過シタルトキハ前二條ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス

第二十四條　郡市長ニ於テ第二十一條第二十二條ノ申立ヲ受ケタルトキハ其ノ理由及證憑ヲ審査シ申立ヲ受ケタル日ヨリ二十日以內ニ之ヲ決定スヘシ

其ノ申立ヲ正當ナリト決定シタルトキハ直ニ選擧人名簿ヲ修正シ其ノ由ヲ申立人及關係人ニ通知シ併セテ其ノ要領ヲ告示スヘシ其ノ申立ヲ正當ナラスト決定シタルトキハ之ヲ申立人ニ通知スヘシ

前項ニ依リ名簿ヲ修正シタルトキハ郡長ハ其ノ由ヲ本人住所地ノ町村長ニ通知スヘシ

第二十五條　前條郡市長ノ決定ニ不服アル申立人及關係人ハ郡市長ヲ被告トシ決定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ七日以內ニ地方裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項地方裁判所ノ判決ニ對シテハ控訴スルコトヲ許サス但シ大審院ニ上告スルコトヲ得

第二十六條　町村長ハ十一月二十日ヨリ十二月十日迄ノ間ニ其ノ管理ニ屬スル選擧人名簿ヲ郡長ニ送付スヘシ

前項名簿ノ送付ヲ受ケタル郡長ハ之ヲ調査シ其ノ修正スヘキモノハ修正ヲ加ヘ十二月二十日迄ニ之ヲ町村長ニ返付スヘシ

第二十七條　選擧人名簿ハ十二月二十日ヲ以テ確定ス

選擧人名簿ハ次年ノ選擧人名簿確定ノ日迄之ヲ据置クヘシ但シ確定判決ニ依

リ修正スヘキモノハ郡市長ニ於テ直ニ之ヲ修正シ其ノ要領ヲ告示スヘシ

前項ニ依リ名簿ヲ修正シタルトキハ郡長ハ其ノ由ヲ本人住所地ノ町村長ニ通知シ副本ヲ修正セシムヘシ

天災事變其ノ他ノ事故ニ因リ必要アルトキハ更ニ選擧人名簿ヲ調製スヘシ

前項選擧人名簿ノ調製及其ノ期日、縱覽確定ニ關スル期日、期間等ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第四章　選擧、投票及投票所

第二十八條　總選擧ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定メ少クトモ三十日前ニ之ヲ公布ス

第二十九條　選擧ハ投票ニ依リ之ヲ行フ

投票ハ一人一票ニ限ル

第三十條　投票所ハ市役所、町村役場又ハ地方長官ノ許可ヲ得テ投票管理者ノ指定シタル場所ニ之ヲ設ク

第三十一條　投票管理者ハ選擧ノ期日ヨリ少クトモ五日前ニ投票所ヲ其ノ投票區内ニ告示スヘシ

第三十二條　郡市長ハ各投票區内ニ於ケル選擧人中ヨリ三名以上五名以下ノ投票立會人ヲ選任シ選擧ノ期日ヨリ少クトモ三日前ニ之ヲ本人ニ通知シ選擧ノ當日投票所ニ參會セシムヘシ

投票立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得ス

第三十三條　投票所ハ午前七時ニ開キ午後六時ニ閉ツ

第三十四條　選擧人ハ選擧ノ當日自ラ投票所ニ到リ選擧人名簿ノ對照ヲ經テ投票簿ニ捺印シ投票スヘシ

投票管理者ハ投票ヲ爲サントスル選擧人ノ本人ナルヤ否ヲ確認スルコト能ハサルトキハ其ノ本人ナル旨ヲ宣言セシムヘシ其ノ宣言ヲ爲サヽル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス

第三十五條　投票用紙ハ選擧ノ當日投票所ニ於テ之ヲ選擧人ニ交付スヘシ

第三十六條　選擧人ハ投票所ニ於テ投票用紙ニ自ラ被選擧人一名ノ氏名ヲ記載シテ投函スヘシ

投票用紙ニハ選擧人ノ氏名ヲ記載スルコトヲ得ス

第三十七條　選擧人名簿ニ登錄セラレサル者ハ投票スルコトヲ得ス但シ選擧人名簿ニ登錄セラルヘキ確定判決書ヲ所持シ選擧ノ當日投票所ニ到ル者アルトキハ投票管理者ハ之ヲシテ投票セシムヘシ

第三十八條　選擧人名簿ニ登錄セラレタル者選擧權ヲ有セサルトキハ投票ヲ爲スコトヲ得ス

自ラ被選擧人ノ氏名ヲ書スルコト能ハサル者亦前項ニ同シ

第三十九條　投票ノ拒否ハ投票立會人ノ意見ヲ聽キ投票管理者之ヲ決定スヘシ

前項ノ決定ヲ受ケタル町村ノ選擧人不服アルトキハ投票管理者ハ假ニ投票ヲ爲サシムヘシ

前項ノ投票ハ選擧人ヲシテ之ヲ封筒ニ入レ封緘シ表面ニ自ラ其ノ氏名ヲ記載シ投函セシムヘシ

第一項ニ掲クル者ニ於テ異議アル町村ノ選擧人ニ對シテモ亦前二項ニ同シ

第四十條　投票所ヲ閉ツヘキ時刻ニ至リタルトキハ投票管理者ハ其ノ由ヲ告ケテ投票所ノ入口ヲ鎖シ投票所ニ在ル選擧人ノ投票結了スルヲ待テ投票函ヲ閉鎖スヘシ

投票函閉鎖後ハ投票スルコトヲ得ス

第四十一條　投票管理者ハ投票錄ヲ作リ投票ニ關スル顚末ヲ記載シ投票立會人ト共ニ之ニ署名スヘシ

第四十二條　町村ニ於テハ投票管理者ハ一名又ハ數名ノ立會人ト共ニ投票ノ翌日迄ニ投票函、投票錄及選擧人名簿ヲ開票管理者ニ送致スヘシ

第四十三條　島嶼其ノ他交通不便ノ地ニシテ前條ノ期日ニ投票函ヲ送致スルコ

ト能ハサル情況アルトキハ地方長官ハ適宜ニ其ノ投票ノ期日ヲ定メ開票ノ期日迄ニ其ノ投票函、投票錄及選擧人名簿ヲ送致セシムルコトヲ得

第四十四條　天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ因リ投票ヲ行フコトヲ得サルトキ又ハ更ニ投票ヲ行フノ必要アルトキハ投票管理者ハ選擧長ニ其ノ由ヲ屆出ツヘシ此ノ場合ニ於テハ選擧長ハ更ニ期日ヲ定メ投票ヲ行ハシムヘシ

但シ其期日ハ少クトモ五日前ニ投票區內ニ告示セシムヘシ

第四十五條　同一選擧區ニ於テ同時ニ二人以上ノ議員ヲ選擧スルトキハ選擧ノ種類如何ニ拘ラス第二十九條及第三十六條ノ例ニ依ル

第四十六條　何人ト雖選擧人ノ投票シタル被選擧人ノ氏名ヲ陳述スルノ義務ナシ

第五章　投票所取締

第四十七條　投票管理者ハ投票所ノ秩序ヲ保持シ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ請求スルコトヲ得

第四十八條　選擧人、投票所ノ事務ニ從事スル者、投票所ヲ監視スル職權ヲ有スル者及警察官吏ノ外投票所ニ入ルコトヲ得ス

第四十九條　投票所ニ於テ演說討論ヲ爲シ若ハ喧騷ニ渉リ又ハ投票ニ關シ協議若ハ勸誘ヲ爲シ其ノ他投票所ノ秩序ヲ紊ル者アルトキハ投票管理者ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ投票所外ニ退出セシムヘシ

第五十條　前條ニ依リ投票所外ニ退出セシメラレタル者ハ最後ニ至リ投票ヲ爲スコトヲ得但シ投票所閉鎖後ハ此ノ限ニアラス

第六章　開票及開票所

第五十一條　開票所ハ郡市役所又ハ地方長官ノ許可ヲ得テ開票管理者ノ指定シタル場所ニ之ヲ設ク

第五十二條　開票管理者ハ豫メ開票所ヲ告示スヘシ

第五十三條　地方長官ハ各開票區內ニ於ケル選擧人中ヨリ三名以上七名以下ノ開票立會人ヲ選任シ開票ニ立會ハシムヘシ但シ市ニ於テハ投票立會人ヲ以テ開票立會人トス

開票立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得ス

第五十四條　開票管理者ハ郡ニ於テハ投票函ノ總テ到達シタル翌日、市ニ於テハ投票ノ翌日開票立會人立會ノ上投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算スヘシ

第五十五條　前條ノ計算終リタルトキハ開票管理者ハ先ツ第三十九條第二項及第四項ノ投票ヲ調査シ開票立會人ノ意見ヲ聽キ其ノ受理如何ヲ決定スヘシ

開票管理者ハ各投票所ノ投票ヲ混同シ開票立會人ト共ニ投票ヲ點檢スヘシ

第五十六條　選擧人ハ其ノ開票所ニ就キ開票ノ參觀ヲ求ムルコトヲ得

第五十七條　投票ノ效力ハ開票立會人ノ意見ヲ聽キ開票管理者之ヲ決定スヘシ

第五十八條　左ノ投票ハ之ヲ無效トス

一　成規ノ用紙ヲ用井サルモノ

二　一投票中二人以上ノ被選擧人ヲ記載シタルモノ

三　被選擧人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ

四　被選擧權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

五　被選擧人ノ氏名ノ外他事ヲ記載シタルモノ但シ官位、職業、身分、住所又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニアラス

第五十九條　投票ハ有效無效ヲ區別シ議員ノ任期間開票管理者ニ於テ之ヲ保存スヘシ

第六十條　開票管理者ハ開票錄ヲ作リ開票ニ關スル顚末ヲ記載シ開票立會人ト共ニ署名シ投票錄ト併セテ議員ノ任期間之ヲ保存スヘシ

第六十一條　投票ノ點檢終リタルトキハ開票管理者ハ直ニ其ノ結果ヲ選擧長ニ報告スヘシ

第六十二條　第四十四條ノ規定ハ但書ヲ除キ開票ニ之ヲ準用ス

第六十三條　開票所ノ取締ニ付テハ第五章ノ規定ヲ準用ス

第七章　選擧會

第六十四條　選擧會ハ選擧長ノ指定シタル場所及日時ニ於テ之ヲ開キ第六十一條ノ報告書ヲ調査ス

選擧ノ一部無效トナリ更ニ選擧ヲ行ヒタル場合ニ於テ第六十一條ノ報告ヲ受ケタルトキハ選擧長ハ選擧會ヲ開キ他ノ開票管理者ノ報告書ト共ニ更ニ之ヲ調査スヘシ

第六十五條　選擧長ハ豫メ選擧會ノ場所及日時ヲ告示スヘシ

第六十六條　選擧長ハ各選擧區内ノ選擧人中ヨリ三名以上七名以下ノ選擧立會人ヲ選任シ選擧會開會ノ期日ヨリ少クトモ三日前ニ之ヲ本人ニ通知シ選擧會ノ當日選擧會ニ參會セシムヘシ

選擧立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得ス

第六十七條　選擧長ハ選擧錄ヲ作リ選擧會ニ關スル顚末ヲ記載シ選擧立會人ト共ニ署名シ第六十一條ノ報告書ト併セテ議員ノ任期間之ヲ保存スヘシ

第六十八條　選擧人ハ其ノ選擧會ニ參觀ヲ求ムルコトヲ得

第六十九條　選擧會場ノ取締ニ附テハ第五章ノ規定ヲ準用ス

第八章　當選人

第七十條　有效投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス但シ其ノ選擧區内ノ議員定數ヲ以テ選擧人名簿ニ記載セラレタル者ノ總數ヲ除シテ得タル數ノ五分ノ一以上ノ得票アルコトヲ要ス

前項ノ當選人ニシテ當選證書付與前ニ於テ其ノ當選ヲ辭シ若ハ死亡シタルトキ又ハ當選證書付與ノ前後ヲ問ハス選擧ニ關スル罰則ニ依リ處罰セラレタル結果當選無效トナリタルトキ又ハ被選擧權ヲ有セサル爲メ當選無效トナリタ

ルトキハ前項ノ得票者ニシテ當選人ト爲ラサリシ者ノ中ニ就キ得票ノ順位ニ依リ之ヲ補充ス

前項ノ場合ヲ除クノ外選擧訴訟若ハ當選訴訟ノ結果ニ依リ必要ナルトキハ本條ノ例ニ依リ更ニ當選人ヲ定ム

第七章ノ規定ハ前二項ノ場合ニ於テモ亦之ヲ適用ス

本條ニ依リ當選人ヲ定ムルニ當リ得票ノ數相同キトキハ年長者ヲ取リ同年月ナルトキハ抽籤シテ其ノ順位ヲ定ム

第七十一條　當選人定マリタルトキハ選擧長ハ直ニ之ヲ當選人ニ告知スヘシ

第七十二條　當選人當選ノ告知ヲ受ケタルトキハ其ノ當選承諾スルヤ否ヲ選擧長ニ屆出ツヘシ

一人ニシテ數選擧區ノ當選ヲ承諾スルコトヲ得ス

第七十三條　當選人當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以內ニ當選承諾ノ屆出ヲ爲サヽルトキハ其ノ當選ヲ辭シタルモノト看做ス

第七十四條　當選人ナキトキハ地方長官ハ選擧ノ期日ヲ定メ豫メ之ヲ告示シ更ニ選擧ヲ行ハシムヘシ

當選人議員ノ定數ニ逸セサルトキハ地方長官ハ前項ノ例ニ依リ其ノ不足ノ員數ニ對シ選擧ヲ行ハシムヘシ

第七十條第二項及第三項ノ場合ニ於テ當選人ナキトキ亦前二項ニ同シ

第八十條及第八十二條ノ出訴期間ハ本條ノ選擧ヲ行フコトヲ得ス其ノ出訴アリタルキ裁判確定スルニ至ル迄ノ間亦同シ

第七十五條　當選人當選ヲ承諾シタルトキハ地方長官ハ直ニ當選證書ヲ付與シ其ノ氏名ヲ管內ニ告示シ且之ヲ內務大臣ニ報告スヘシ

第七十六條　選擧訴訟若ハ當選訴訟ノ判決ニ依リ選擧若ハ當選無效トナリタルトキ又ハ當選證書ヲ付與シタル後選擧ニ關スル罰則ニ依リ處罰セラレタル結果當選無效トナリタルトキハ地方長官ハ其ノ當選證書ヲ取消シ之ヲ管內ニ告示スヘシ

第九章　議員ノ任期及補闕選擧

第七十七條　議員ノ任期ハ總選擧ノ期日ヨリ四個年トス但シ議會開會中ニ任期終ルモ閉會ニ至ル迄在任ス

第七十八條　選擧ノ日ヨリ一箇年以內ニ議員ノ闕員ヲ生シタルトキハ第七十條ノ例ニ依ル

前項ノ場合ニ於テ當選人ナキトキ又ハ選擧ノ日ヨリ一箇年以後ニ議員ノ闕員ヲ生シタルトキハ地方長官ハ內務大臣ノ命ニ依リ其ノ命ヲ受ケタル日ヨリ二十日以內ニ補闕選擧ヲ行フヘシ

前項ノ補闕選擧ノ期日ハ地方長官豫メ之ヲ告示スヘシ

第七十九條　補闕議員ハ其ノ前任者ノ殘任期間在任ス

第十章　選擧訴訟及當選訴訟

第八十條　選擧ノ效力ニ關シ異議アル選擧人ハ選擧長ヲ被告トシ選擧ノ日ヨリ三十日以內ニ控訴院ニ出訴スルコトヲ得

前項控訴院ノ判決ニ不服アル者ハ大審院ニ上告スルコトヲ得

第八十一條　選擧ノ規定ニ違背スルコトアルトキハ當選ノ結果ニ異動ヲ及ホスノ虞アル場合ニ限リ裁判所ハ其ノ選擧ノ全部若ハ一部ノ無效ヲ判決スヘシ

當選訴訟ニ於テモ其ノ選擧前項ノ場合ニ該當スルトキハ裁判所ハ其ノ全部若ハ一部ノ無效ヲ判決スヘシ

第八十二條　當選ヲ失ヒタル者當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ當選人ヲ被告トシ第七十五條ノ氏名告示ノ日ヨリ三十日以內ニ控訴院ニ出訴スルコトヲ得

但シ第七十條第一項但書ニ定メタル得票ニ達シタリトノ理由ニ由リ出訴スル場合ニ於テハ選擧長ヲ被告トシ第七十四條ノ告示ノ日ヨリ三十日以內ニ出訴スヘシ

前項控訴院ノ判決ニ不服アル者ハ大審院ニ上告スルコトヲ得

第八十三條　裁判所ハ選擧訴訟若ハ當選訴訟ヲ裁判スルニ當リ檢事ヲシテ口頭辯論ニ立會ハシムヘシ

第八十四條　裁判所ニ於テ選擧訴訟若ハ當選訴訟ヲ判決シタルトキハ其ノ判決書ノ謄本ヲ內務大臣ニ送付スヘシ若帝國議會開會中ナルトキハ併セテ之ヲ衆議院議長ニ送付スヘシ

第八十五條　原告人ハ訴狀ヲ提出スルト同時ニ保證金トシテ三百圓又ハ之ニ相當スル額面ノ公債證書ヲ供託スヘシ

原告人敗訴ノ場合ニ於テ裁判確定ノ日ヨリ七日以內ニ裁判費用ヲ完納セサルトキハ保證金ヲ以テ之ニ充當シ仍足ラサルトキハ之ヲ追徵ス

第十一章　罰則

第八十六條　詐僞ノ方法ヲ以テ選擧人名簿ニ登錄セラレタル者又ハ第三十四條第二項ノ場合ニ於テ虛僞ノ宣言ヲ爲シタル者ハ十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十七條　選擧ノ前後ヲ問ハス左ノ各號ニ該當スル所爲アル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　選擧ニ關シ直接又ハ間接ニ金錢、物品、手形其ノ他ノ利益若ハ公私ノ職務ヲ選擧人又ハ選擧運動者ニ供與シ又ハ供與セムコトヲ申込ミタル者又ハ供與若ハ申込ヲ承諾セムコトヲ周旋勸誘シタル者竝供與ヲ受ケ若ハ申込ヲ承諾シタル者

二　選擧ニ關シ酒食、遊覽等其ノ方法及名義ノ何タルヲ問ハス人ヲ饗應接待シ又ハ饗應接待ヲ受ケタル者又ハ選擧會場開票所若ハ投票所ニ往復スル爲船車馬ノ類ヲ供給シ及其ノ供給ヲ受ケタル者又ハ旅費若ハ休泊料ノ類ヲ代辨シ及其ノ代辨ヲ受ケタル者竝此等ノ約束ヲ爲シ又ハ約束ヲ受ケタル者

三　選擧ニ關シ選擧人又ハ其ノ關係アル社寺、學校、會社、組合、市町村等ニ對スル用水、小作、債權、寄附其ノ他利害ノ關係ヲ利用シ選擧人ヲ誘導シタル

者及其ノ誘導ニ應シタル者

前項ノ場合ニ於テ其ノ收受シタル物件ハ之ヲ沒收シ既ニ費用シタルモノハ其ノ價ヲ追徵ス

第八十八條　左ノ各號ニ該當スル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

一　選擧ニ關シ選擧人ニ暴行脅迫ヲ加ヘ若ハ之ヲ拐引シタル者

二　選擧人ニ對シ往來ノ便ヲ妨ケ又ハ詐僞ノ手段ヲ以テ選擧權ノ行使ヲ妨害シ若ハ投票ヲ爲サシメタル者

三　選擧ニ關シ選擧人又ハ其ノ關係アル社寺、學校、會社、組合、市町村等ニ對スル用水、小作、債權其ノ他利害ノ關係ヲ利用シ選擧人ヲ威逼シタル者

第八十九條　選擧事務ニ關係アル官吏、吏員、立會人及監視者選擧人ノ投票シタル被選擧人ノ氏名ヲ表示シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其ノ表示シタル事實虛僞ナルトキ亦同シ

第九十條　投票所又ハ開票所ニ於テ正當ノ事由ナクシテ選擧人ノ投票ニ干渉シ又ハ被選擧人ノ氏名ヲ認知スルノ方法ヲ行ヒタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

法令ノ規定ニ依ラスシテ投票函ヲ開キ又ハ投票函中ノ投票ヲ取出シタル者ノ罰亦前項ニ同シ

第九十一條　投票管理者、開票管理者、選擧長、立會人若ハ選擧監視者ニ暴行ヲ加ヘ又ハ選擧會場、開票所若ハ投票所ヲ騷擾シ又ハ投票、投票函其ノ他關係書類ヲ抑留、毀壞、奪取シタル者ハ四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處ス

多衆ヲ嘯聚シテ前項ノ罪ヲ犯シタル者ハ輕禁獄ニ處ス其ノ情ヲ知テ嘯聚ニ應シ勢ヲ助ケタルハ者ハ一月以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第九十二條　選擧人、議員候補者若ハ選擧運動者ヲ脅迫シ又ハ選擧會場、開票所投票所ヲ騷擾シ又ハ投票、投票函其ノ他關係書類ヲ抑留、毀壞、奪取スルノ目的ヲ以テ多衆ヲ嘯聚シタル者ハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處ス其ノ情ヲ知

ヲ癘聚ニ臨シ勢ヲ助ケタル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處ス
犯罪者第九十三條ノ物件ヲ携帶シタルトキハ各本刑ニ一等ヲ加フ

第九十三條 選擧人、議員候補者及選擧運動者ニシテ選擧ニ關シ銃砲、槍戟、刀劔、竹槍、棍棒其ノ他人ヲ殺傷スルニ足ルヘキ物件ヲ携帶シタル者ハ二年以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

警察官吏又ハ憲兵ハ必要ト認ムル場合ニ於テ前項ノ物件ヲ領置スルコトヲ得

第九十四條 前條記載ノ物件ヲ携帶シテ選擧會場、開票所若ハ投票所ニ入リタル者ハ前條ノ例ニ依リ一等ヲ加フ

第九十五條 選擧ニ關シ氣勢ヲ張ルノ目的ヲ以テ多衆集合シ若ハ隊伍ヲ組ミテ往來シ又ハ煙火、篝火、松明ノ類ヲ用ヰ若ハ鐘鼓、法螺、喇叭ノ類ヲ鳴ラシ旗幟其ノ他ノ標章ヲ用ウル等ノ所爲ヲ爲シ警察官吏ノ制止ヲ受クルモ仍其ノ命ニ從ハサル者ハ十五日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十六條 第八十九條乃至第九十五條ノ所爲ヲ爲サシムルノ目的ヲ以テ演說又ハ新聞紙、雜誌、引札、張札其ノ他何等ノ方法ヲ以テスルニ拘ラス人ヲ教唆シタル者ハ其ノ各條ニ依リ處斷ス但シ新聞紙、雜誌ニ在リテハ仍其ノ署名シタル編輯人ヲ處斷ス

第九十七條 當選ヲ妨クルノ目的ヲ以テ演說又ハ新聞紙、雜誌、引札、張札其ノ他何等ノ方法ヲ以テスルニ拘ラス議員候補者ニ關シ虛僞ノ事項ヲ公ニシタル者ハ六月以下ノ輕禁錮ニ處シ五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス新聞紙、雜誌ニ在リテハ前條但書ノ例ニ依ル

第九十八條 選擧人タルコトヲ得サル者ニシテ投票ヲ爲シタル者及氏名ヲ詐稱シテ投票ヲ爲シタル者ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九十九條 立會人正當ノ事故ナクシテ本法ニ定メタル義務ヲ缺クトキハ五圓

以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第百條　第九十二條第二項第九十三條及第九十四條ノ罪ヲ犯シタル場合ニ於テハ其ノ携帶シタル物件ヲ沒收ス

第百一條　當選人其ノ選擧ニ關シ選擧ニ關スル犯罪ニ依リ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ當選ヲ無效トス

第百二條　選擧ニ關スル犯罪ニ依リ刑ニ處セラレタル者ハ裁判所ノ宣告ヲ以テ刑期後仍二年以上八年以下選擧人及被選擧人タルコトヲ禁ス

第百三條　本法ニ依リ處罰スヘキ犯罪ハ六箇月ヲ以テ時效ニ罹ル

第十二章　補則

第百四條　選擧ニ關スル費用ニ付テハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第百五條　選擧ニ關スル訴訟ニ付テハ裁判所ハ他ノ訴訟ノ順序ニ拘ラス速ニ其ノ裁判ヲ爲スヘシ

第百六條　町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ本法ニ規定シタル町村長ノ職務ハ戶長又ハ之ニ準スヘキ者之ヲ掌ル

島司ヲ置ケル島嶼ニ於テハ本法ニ規定シタル郡長ノ職務ハ島司之ヲ掌リ其ノ島司ナキモノニ於テハ郡長ニ準スヘキ者之ヲ掌ル

東京市、京都市、大阪市ニ於テハ本法中市トアルハ區、市長トアルハ區長、市役所トアルハ區役所ニ該當ス

第百七條　立會人指定ノ時刻ニ至リ參會セサルトキ又ハ參會シタルモ中途ヨリ定數ヲ缺キタルトキハ投票管理者、開票管理者、選擧長ハ臨時ニ選擧人ノ中ヨリ立會人ヲ選任スヘシ

第百八條　選擧人名簿ニ關スル訴訟、選擧訴訟及當選訴訟ニ付テハ本法ニ規定シタルモノヲ除クノ外總テ民事訴訟ノ例ニ依ル

第百九條　本法ニ於ケル直接國稅ノ種類ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第百十條　北海道及沖繩縣ニ於テ本法ノ規定ヲ適用シ難キ事項ニ付テハ勅令ヲ

以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第十三章　附則

第百十一條　本法ハ次ノ總選擧ヨリ之ヲ施行ス但シ北海道（札幌區、函館區小樽區ヲ除ク）沖繩縣ニ付テハ勅令ヲ以テ別ニ施行ノ期日ヲ定ム

第百十二條　本法ニ依リ初テ議員ヲ選擧スルニ付必要ナル選擧人名簿ノ調製ニ限リ第十八條乃至第二十條第二十四條第二十六條第二十七條ノ期日及期間ハ勅令ヲ以テ別ニ之ヲ定ムルコトヲ得但シ其ノ選擧人名簿ハ次年ノ選擧人名簿確定ノ日迄其ノ效力ヲ有ス

別表

東京府	
東京市	十一人
郡部（伊豆七島ヲ除ク）	五人
京都府	
京都市	三人
郡部	五人

大阪府	
大阪市	六人
堺市	一人
郡部	六人
神奈川縣	
△橫濱市	二人
郡部	六人
兵庫縣	
神戶市	二人
姬路市	一人
郡部	十一人
長崎縣	
長崎市	一人
郡部	六人
對馬	一人
新潟縣	
新潟市	一人
郡部	十二人
△佐渡	一人
埼玉縣	九人
群馬縣	
前橋市	一人
△高崎市	一人
郡部	六人
千葉縣	十人
茨城縣	

水戸市　一人
郡部　九人
栃木縣
宇都宮市　一人
郡部　六人
奈良縣
奈良市　一人
郡部　四人
三重縣
津市　一人
△四日市市　一人
郡部　七人
愛知縣
名古屋市　二人
郡部　十一人
靜岡縣
靜岡市　一人
郡部　九人
山梨縣
甲府市　一人
郡部　四人
滋賀縣
大津市　一人
郡部　五人
岐阜縣
岐阜市　一人

郡部　七人
長野縣
長野市　一人
△郡部　九人
宮城縣
仙臺市　一人
郡部　六人
福島縣
△若松市　一人
郡部　八人
巖手縣
盛岡市　一人
郡部　五人
青森縣
弘前市　一人
△青森市　一人
郡部　四人
山形縣
山形市　一人
米澤市　一人
郡部　六人
秋田縣
△秋田市　一人
郡部　六人
福井縣
福井市　一人

郡部　四人
石川縣
金澤市　一人
郡部　五人
富山縣
富山市　一人
高岡市　一人
郡部　五人
鳥取縣
△鳥取市　一人
郡部　三人
島根縣
松江市　一人

郡部　五人
隱岐　一人
岡山縣
岡山市　一人
郡部　八人
廣島縣
廣島市　一人
△尾道市　一人
郡部　十人
山口縣
赤間關市　一人
郡部　七人
和歌山縣

和歌山市　一人
郡部　五人
德島縣
德島市　一人
郡部　五人
香川縣
高松市　一人
△丸龜市　一人
郡部　五人
愛媛縣
松山市　一人
郡部　七人
高知縣

高知市　一人
郡部　五人
福岡縣
福岡市　一人
△久留米市　一人
△門司市　一人
△小倉市　一人
郡部　十人
大分縣　六人
佐賀縣
佐賀市　一人
郡部　五人

熊本縣	熊本市	一人
	郡部	八人
宮崎縣		四人
鹿兒島縣	鹿兒島市	一人
	郡部	七人
	大島	一人
北海道廳	札幌區	一人
	函館區	一人
	小樽區	一人
	札幌、小樽、岩内、増毛、宗谷、上川、空知、室蘭、浦河各支廳管内	一人
	函館、松前、檜山、壽都各支廳管内	一人
	根室、釧路、河西、網走各支廳管内（根室支廳管内千島ニ屬スル諸郡ヲ除ク）	一人

沖繩縣	那覇區、首里區、島尻郡、中頭郡、國頭郡	二人

△本表ハ選擧區ノ人口ニ增減ヲ生スルモ少クトモ十箇年間ハ之ヲ更正セス

（參照）別表及末項ノ△印ハ三十五年法律第三十八號及三十九號ニ依リ改正セラレタルモノニ係ル

衆議院議員選舉人名簿ニ關スル件（明治三十五年三月十一日 法律第十九號）

明治三十五年ニ於テハ明治二十二年法律第三號衆議院議員選舉法第十八條ニ依リ選舉人名簿ヲ調製スルヲ要セス

明治三十四年四月一日調製シタル衆議院議員選舉人名簿ハ次ノ總選舉迄之ヲ据置クヘシ

選舉法第百十二條ニ依ル選舉人名簿ニ關スル件（明治三十五年三月十日 勅令第四十號）

明治三十三年法律第七十三號衆議院議員選舉法第百十二條ニ依リ明治三十五年ニ於ケル衆議院議員選舉人名簿ノ調製ニ限リ同法第十八條乃至第二十條第二十六條及第二十七條ノ期日及期間ヲ左ノ如ク定ム

第十八條第一項ノ選舉資格調査ノ期日ヲ四月一日トシ選舉人名簿送付ノ期限ヲ四月十五日トシ同條第二項ノ期限ヲ四月三十日トシ同條第三項ノ選舉資格調査ノ期日ヲ四月一日トシ選舉人名簿調製ノ期限ヲ四月三十日トス

第十九條ノ期限ヲ四月五日トス

第二十條ノ期間ヲ五月五日ヨリ十五日間トス

第二十六條第一項ノ期間ヲ五月二十日ヨリ六月十日迄トシ第二項ノ期限ヲ六月二十日トス

第二十七條第一項ノ期日ヲ六月二十日トス

衆議院議員選舉法施行令（明治三十四年十月三日 勅令第百八十六號）

第一條　衆議院議員選舉法第二條ニ依リ市町村ニ於テ二箇以上ノ投票區ヲ設ケ又ハ數町村ノ區域ニ依リ一投票區ヲ設クルコトヲ要スルトキハ地方長官之ヲ定メ管内ニ告示スヘシ

第二條　二箇以上ノ投票區ヲ設ケタル場合ニ於テハ左ノ規定ニ依ル

一　選擧人名簿ハ毎投票區各別ニ之ヲ調製スヘシ

二　各投票區ニ於ケル投票管理者ハ市ニ在リテハ地方長官、町村ニ在リテハ郡長ニ於テ官吏又ハ吏員ノ中ニ就キ之ヲ指名ス此場合ニ於テハ投票管理者ノ內一名ハ市町村長、市町村長故障アルトキハ其ノ職務ヲ行フ者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ要ス

三　市町村長ハ選擧前選擧人名簿ヲ各投票管理者ニ送付スヘシ

四　投票ヲ終リタルトキハ市ノ投票管理者ハ一名又ハ數名ノ投票立會人ト共ニ遲滯ナク投票函、投票錄及選擧人名簿ヲ開票管理者ニ送致スヘシ

五　市ノ開票所ニ於テハ投票函ノ總テ到達スルニ非サレハ之ヲ開クコトヲ得ス

第三條　數町村ノ區域ニ依リ一投票區ヲ設ケタル場合ニ於テハ左ノ規定ニ依ル

一　投票管理者ハ郡長ニ於テ關係町村長、町村長故障アルトキハ其ノ職務ヲ行フ者ノ中ニ就キ之ヲ指名ス

二　町村長ハ選擧前選擧人名簿ヲ投票管理者ニ送付スヘシ

第四條　選擧人ノ年齡ハ選擧人名簿調製ノ期日ニ依リ被選擧人ノ年齡ハ選擧期日ニ依リ之ヲ算定ス

第五條　郡市町村ノ境界變更アリタル爲選擧人名簿ニ異動ヲ生シタルトキハ郡市長ニ在リテハ其ノ管理ニ屬スル選擧人名簿中異動ニ係ル部分ヲ新ニ屬シタル郡市ノ郡市長ニ送付シ町村長ニ在リテハ其ノ管理ニ屬スル選擧人名簿中異動ニ係ル部分ヲ新ニ屬シタル町村ノ町村長ニ送付シ同時ニ其ノ旨ヲ郡長ニ報告スヘシ

町村長ニ於テ選擧人名簿ノ送付ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ郡長ニ報告スヘシ

市町村ノ廢置分合アリタル爲選擧人名簿ノ引繼ヲ要スルトキハ本條ノ例ニ依ル

第六條　前條ニ依リ郡長ニ於テ市長ヨリ選擧人名簿ノ送付ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ副本ヲ調製シ關係町村長ニ送付スヘシ

第七條　選擧人名簿縱覽ノ場所ハ郡長及市町村長ニ於テ縱覽期日ヨリ少クトモ三日前ニ之ヲ告示スヘシ

第八條　選擧人名簿其ノ他選擧ニ關スル書類ハ使用ノ時期ヲ經過スルモ選擧若ハ當選ノ效力確定セサル間ハ之ヲ保存スルコトヲ要ス

市町村ニ於テ二箇以上ノ投票區ヲ設ケタル場合ニ於テハ投票管理者ノ保存スヘキ書類ハ市町村長ニ於テ前項ノ例ニ依リ之ヲ保存スルコトヲ要ス

第九條　郡市長ニ於テ投票立會人ヲ選任シタルトキハ同時ニ其ノ住所氏名ヲ投票管理者ニ通知スヘシ

第十條　投票管理者ニ於テ必要アリト認ムルトキハ投票所入場券及到著番號札ヲ選擧人ニ交付スルコトヲ得

第十一條　投票記載ノ場所ハ選擧人ヲシテ他ノ選擧人ノ投票ヲ覗ヒ又ハ投票ノ交換其ノ他不正ノ手段ヲ用ウルコト能ハサラシムル爲相當ノ設備ヲ爲スヘシ

第十二條　投票函ハ二重ノ蓋ヲ造リ各別ニ鎖鑰ヲ設クヘシ

第十三條　投票管理者ハ投票ヲ爲サシムルニ先チ投票所ニ參集シタル選擧人ノ面前ニ於テ投票函ヲ開キ其空虛ナルコトヲ示シタル後內蓋ヲ鎖スヘシ

第十四條　投票用紙ハ投票管理者及投票立會人ノ面前ニ於テ選擧人ヲシテ其ノ住所氏名ヲ自稱セシメ選擧人名簿ニ對照シ且ツ投票簿ニ捺印セシメタル後之ヲ交付スヘシ

第十五條　選擧人誤テ投票ノ用紙又ハ封筒ヲ汚損シタルトキハ其ノ引換ヲ請求スルコトヲ得

第十六條　投票ハ投票管理者及投票立會人ノ面前ニ於テ選擧人自ラ之ヲ投函スヘシ

第十七條　投票ヲ爲サムトスル選擧人ヲシテ本人ナル旨ノ宣言ヲ爲サシムル必要アルトキハ投票管理者ハ投票立會人ノ面前ニ於テ之ヲ宣言セシメ投票所ノ

事務ニ從事スル者ヲシテ之ヲ筆記セシメ選擧人ニ讀聞カセ選擧人ヲシテ之ニ署名捺印セシムヘシ

前項ノ宣言書ハ之ヲ投票錄ニ添附スヘシ

第十八條　選擧人ニシテ投票前投票所外ニ退出シ又ハ退出ヲ命セラレタルトキハ投票管理者ハ投票用紙ヲ取上ケ其ノ旨ヲ投票簿ニ記入スヘシ

第十九條　投票所外ニ退出セシメラレタル選擧人ニシテ投票ヲ爲サムトスル者アルトキハ投票管理者ハ投票所ノ入口ヲ鎖スニ先チ入場ヲ許スヘシ

第二十條　投票ヲ終リタルトキハ投票管理者ハ投票函ノ內蓋ノ投票口及外蓋ヲ鎖シ其ノ內蓋ノ鑰ハ投票函ヲ送致スヘキ投票立會人之ヲ保管シ外蓋ノ鑰ハ投票管理者之ヲ保管スヘシ

第二十一條　衆議院議員選擧法第四十四條ニ依リ選擧長ニ於テ更ニ投票期日ヲ定メタルトキハ直ニ之ヲ郡市長ニ通知スヘシ

郡市長ニ於テ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ更ニ衆議院議員選擧法第三十二條ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十二條　地方長官ニ於テ開票立會人ヲ選任シタルトキハ同時ニ其ノ住所氏名ヲ開票管理者ニ通知スヘシ

第二十三條　投票ヲ點檢スルトキハ開票管理者又ハ選擧事務ニ從事スル者ニ於テ每票記載ノ氏名ヲ朗讀シ選擧事務ニ從事スル者二名ヲシテ各別ニ同一被選擧人ノ得票ヲ點數簿ニ記入セシムヘシ

第二十四條　投票ノ點檢ヲ終リタルトキハ開票管理者ハ各被選擧人ノ得票數ヲ朗讀スヘシ

第二十五條　開票管理者ハ點檢濟ニ係ル投票ノ有效無效ヲ區別シ開票立會人ト共ニ封印ノ上之ヲ保存スヘシ

不受理ノ決定アリタル投票ハ其ノ封筒ト共ニ前項ノ例ニ依リ之ヲ保存スヘシ

第二十六條　開票管理者衆議院議員選擧法第六十一條ノ報告ヲ爲ストキハ開票錄ノ謄本ヲ添附シ併セテ選擧人名簿ニ記載セラレタル者ノ總數ヲ報告スヘ

シ

前項ノ報告ヲ爲シタルトキハ開票管理者ハ各投票管理者ヨリ送付シタル選擧人名簿ヲ關係町村長ニ返付スヘシ

第二十七條　選擧長ニ於テ開票管理者ノ報告書ヲ調査スルトキハ每開票區得票者ノ氏名及其ノ得票數ヲ朗讀シ終ニ各得票者ノ得票總數ヲ朗讀スヘシ

第二十八條　衆議院議員選擧法第六十二條ニ依リ選擧長ニ於テ開票期日ヲ定メタルトキハ地方長官ハ更ニ同法第五十三條ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十九條　選擧人名簿、投票簿、投票ノ用紙及封筒竝投票函ノ調製ニ要スル費用ハ府縣費及北海道地方費ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第三十條　選擧長、開票管理者又ハ投票管理者ニ於テ選擧事務ノ爲要スル費用及選擧會場、開票所又ハ投票所ニ要スル費用ハ當該行政廳ノ經費ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第三十一條　數町村ノ區域ニ依リ一投票區ヲ設ケタル場合ニ於テハ町村費ヲ以テ支辨スヘキ費用ハ之ヲ各町村ニ平分スヘシ

第三十二條　投票立會人、開票立會人及選擧立會人ニハ地方長官ノ定ムル所ニ依リ職務ノ爲要スル費用ヲ給スルコトヲ得

前項ノ費用ハ府縣費及北海道地方費ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第三十三條　衆議院議員選擧法ニ於ケル直接國稅ノ種類左ノ如シ

一　地租

二　所得稅　所得稅法第三條第一項第二種ノ所得中無記名債劵ノ所得ニ係ル所得稅ヲ除ク

三　營業稅

第三十四條　衆議院議員選擧法第一條ノ別表ニ於テ獨立ノ選擧區ト爲シタルモノヲ除クノ外市ハ從前屬シタル選擧區ニ包含スルモノトス

第三十五條　郡市ノ區域ニ屬セサル島嶼ニ於テハ開票區ハ島ノ區域ニ依ル

第三十六條　開票管理者、投票管理者及其ノ代理者故障アルトキハ上級官廳ハ臨時ニ官吏又ハ吏員ヲシテ其ノ事務ヲ管掌セシムルコトヲ得

第三十七條　衆議院議員選擧法第三條及第百六條ノ規定ハ本令ニ之ヲ準用ス

第三十八條　北海道ノ札幌區、函館區及小樽區ニ於テハ衆議院議員選擧法其ノ他之ニ關スル法令中市トアルハ區、市長トアルハ區長、市役所トアルハ區役所ニ該當ス

市町村外ニ於ケル納税證明ノ件

（明治三十四年十月七日内務省令第二十七號）

明治三十三年法律第七十三號衆議院議員選擧法第十九條ニ依リ選擧人ニ於テ納税ノ届出ヲ爲ストキハ選擧人名簿ニ記載セラルヘキ納税要件ニ付地租營業税及所得税法第三條第一項第三種ノ所得ニ係ル所得税ヲ納ムルモノニ在テハ其ノ税ヲ徴收スル行政廳ノ證明ヲ得所得税法第三條第一項第二種ノ所得中記名債券ノ所得ニ係ル所得税ヲ納ムル者ニ在テハ其ノ税ヲ徴收スル公共團體若ハ組合又ハ銀行會社ノ證明ヲ得ルコトヲ要ス

前項證明ノ請求ヲ受ケタル行政廳公共團體若ハ組合又ハ銀行會社ハ遲滯ナク證明ヲ爲スヘシ

衆議院議員選擧法第二十七條ニ依リ更ニ調製スル選擧人名簿ノ件

（明治三十四年十月七日内務省令第二十八號）

明治三十三年法律第七十三號衆議院議員選擧法第二十七條末項ノ選擧人名簿ノ調製及其ノ期日縱覽確定ニ關スル期日期間等ハ地方長官之ヲ定ム

選擧人名簿投票用紙封筒及投票函ノ樣式

（明治三十四年十月七日内務省令第二十九號）

衆議院議員選擧人名簿樣式　用紙程村又ハ西ノ内

第二號			
納税額區別及納税年間納税地	金何圓		
	地租	金何圓、、、 自何年何月何日以前、、、 何府縣何郡(市)町村 金何圓、、、 自何年何月何日以前、、、 何府縣何郡(市)町村 但何年何月何日家督相續	
	所得税	金何圓、、、 何年分、、、 何府縣何郡(市)町村	
	營業税	金何圓、、、 何年分、、、 何府縣何郡(市)町村	
身分	族	住所	何郡(市)何町村
官位	官位	氏名	何某
職業	何業	生年月	何年何月

一名簿ハ大字若ハ小字毎ニ區別シテ調製スヘシ但シ一字若ハ數字毎ニ分綴スルモ妨ナシ

一異議ノ決定裁判ノ判決等ニ依リ名簿ヲ修正シタルトキハ其ノ旨並修正ノ年月日ヲ欄外ニ記シ官印又ハ職印ヲ押捺スヘシ

一名簿ノ表紙及卷末ニハ左ノ通記載スヘシ

（表紙）

> 何年何月何日現在調
>
> 衆議院議員選擧人名簿
>
> 正(副)本
>
> 何府縣何郡(市)何町村(大字若ハ小字何々)

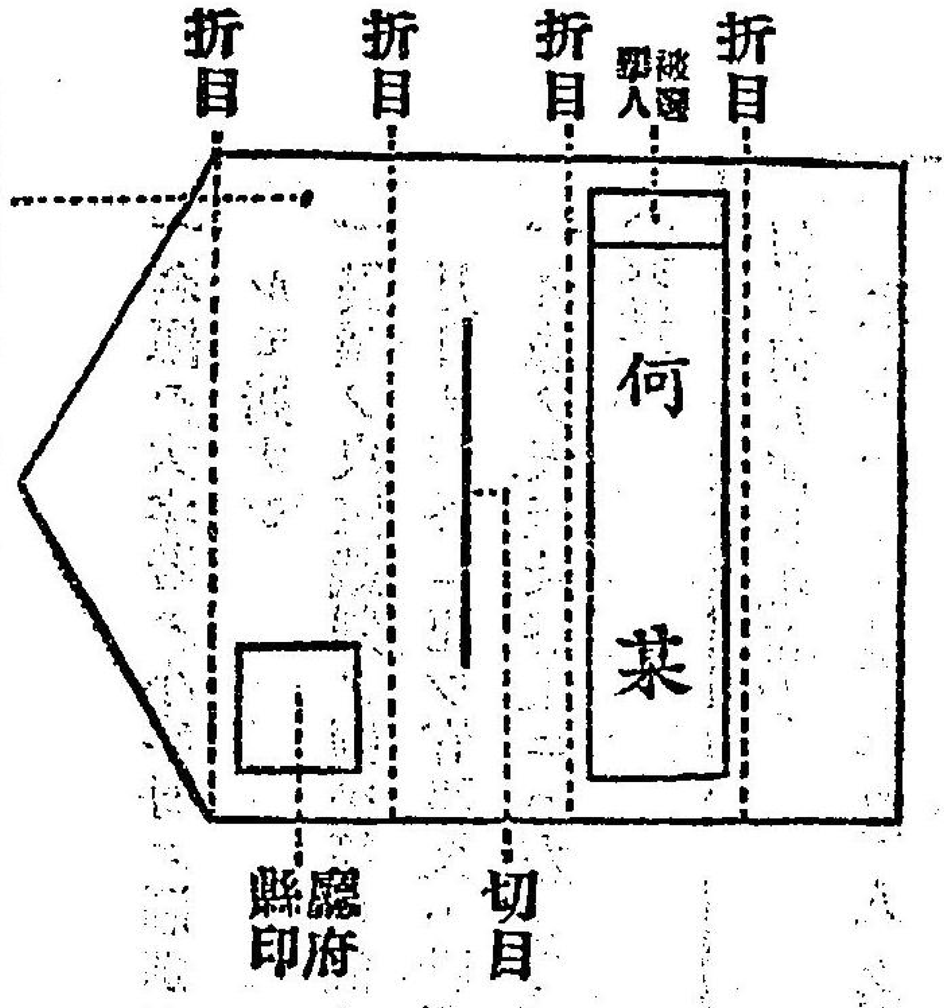
選擧人名簿投票用紙封筒及投票函ノ樣式

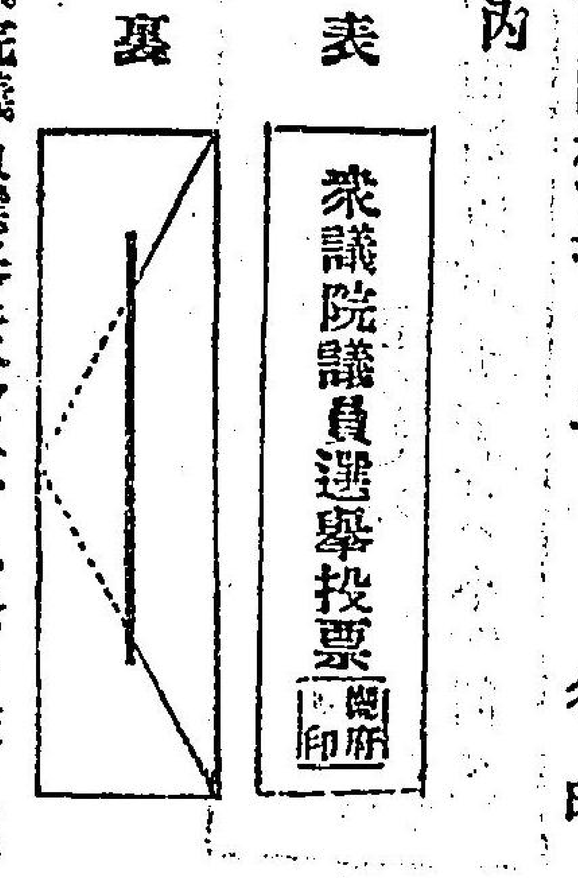
（卷末）

此ノ選擧人名簿ハ明治何年何月何日ヨリ何日間何役所（何役場）ニ於テ縦覧セシメ何年何月何日ヲ以テ確定セリ

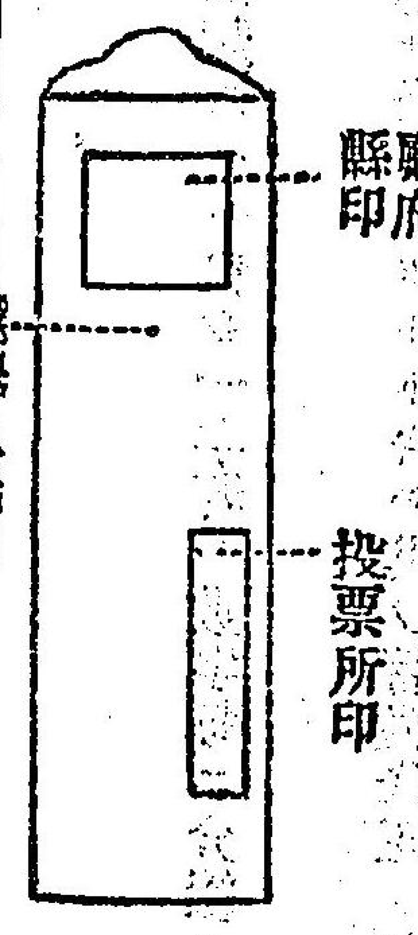
郡市（町村）長　氏　名　印

投票用紙様式　用紙程村又ハ西ノ内



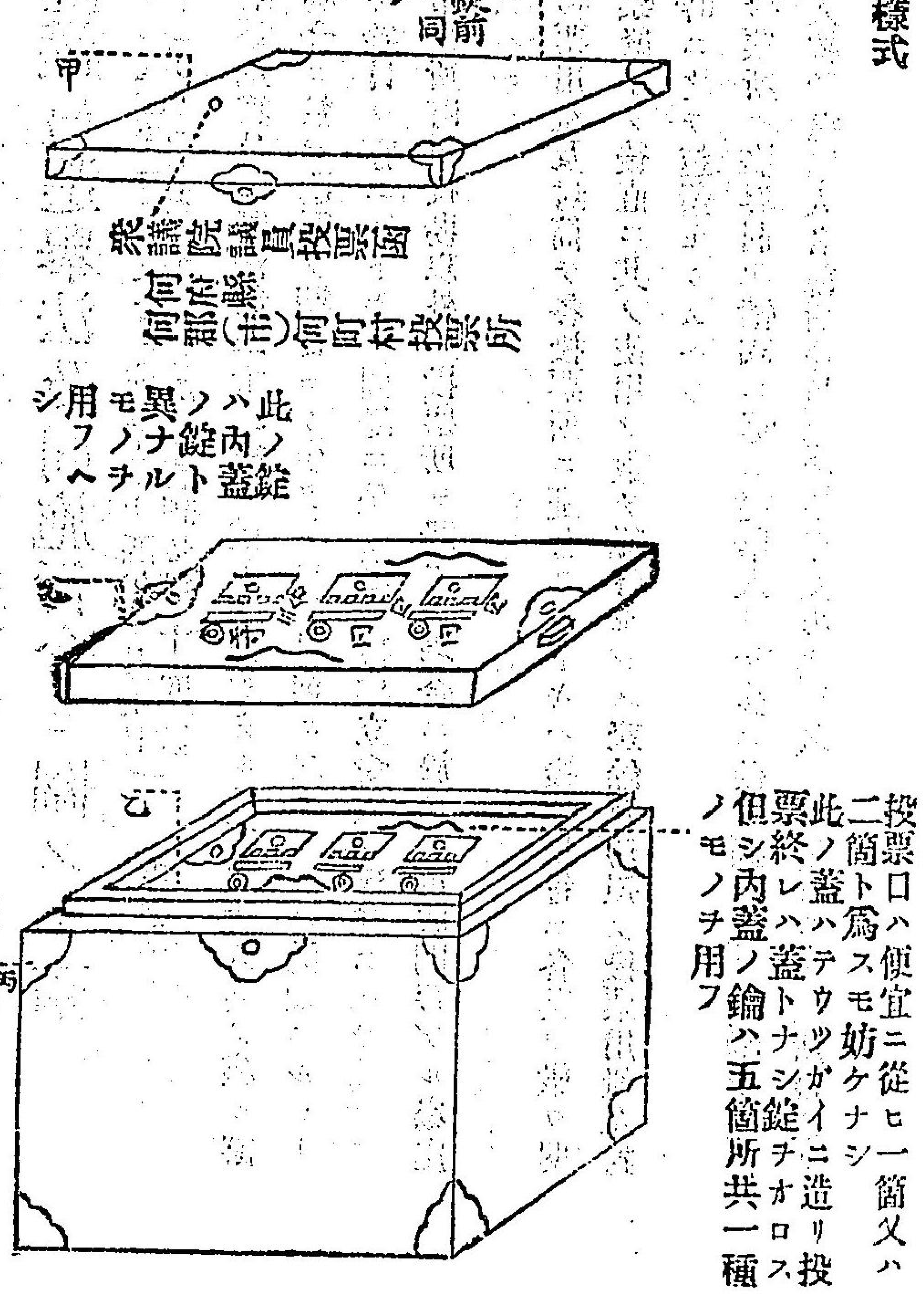


衆議院議員選擧法第三十九條ニ依リ假ニ爲サシムル投票ノ封筒様式



投票函様式

厚仕上凡八歩
高凡一尺二寸
幅凡一尺五寸
横凡一尺
但シ大小ハ選擧人ノ多寡ニ應シ適宜ニ之ヲ造ルヘシ



選擧人名簿投票用紙封筒及投票函ノ様式

衆議院議員選擧法及同施行令ニ關スル事務及書式等取扱方（明治三十四年十月七日内務省訓令第十四號）　廳府縣

第一條　衆議院議員選擧法第三十二條ニ依リ選任シタル投票立會人其ノ職ヲ辭シタル場合ニ於テ選擧ノ期日ヨリ少クトモ三日前ニ之ヲ本人ニ通知スルコトヲ得ヘキ餘日ヲ存スルトキハ同條ニ依リ更ニ投票立會人ヲ選任スヘシ

第二條　市役所町村役場以外ニ投票所ヲ設クル場合ニ於テハ可成門戸アル場處ヲ指定スヘシ

第三條　投票用紙及封筒ヲ各投票所ニ配付スルトキハ投票所毎ニ各其ノ數ヲ明記シ投票終了ノ後直ニ其ノ使用ノ數ヲ報告セシメ殘餘及汚損ノ投票用紙及封筒ハ同時ニ之ヲ返還セシムヘシ

第四條　投票所ハ概略別記樣式ニ從ヒ選擧人ノ多少ニ依テ適宜之ヲ斟酌シ受付所選擧人控所選擧人名簿對照投票簿捺印及投票用紙交付所投票記載所投票ノ場所等ヲ設備スヘシ

第五條　投票ハ投票記載ノ爲設ケタル卓上ニ於テ之ヲ記載セシメ其ノ記載終リタルトキハ直ニ投函セシムヘシ

投票記載ノ爲設ケタル卓上ニハ筆硯墨ヲ備ヘ置キ投票記載ニ支障ナカラシムヘシ

第六條　選擧人出入ノ門戸及投票所出入口等ニハ警察官吏又ハ特ニ設ケタル取締人ヲ配置シ取締ヲ爲サシムヘシ

第七條　衆議院議員選擧法第四十條ニ依リ投票函閉鎖ノ後ハ開票管理者ニ送致スル迄ノ間投票函ハ之ヲ投票所外ニ轉送スルコトヲ得ス

第八條　衆議院議員選擧法第六十六條ニ依リ選任シタル選擧立會人其ノ職ヲ辭シタル場合ニ於テ選擧會開會ノ日ヨリ少ナクトモ三日前ニ之ヲ本人ニ通知スルコトヲ得ヘキ餘日ヲ存スルトキハ同條ニ依リ更ニ選擧立會人ヲ選任スヘシ

第九條　衆議院議員選擧法第七十條ノ手續ハ選擧會ニ於テ之ヲ行フヘシ

第十條　投票簿投票錄開票錄選擧錄點數簿ハ別記樣式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

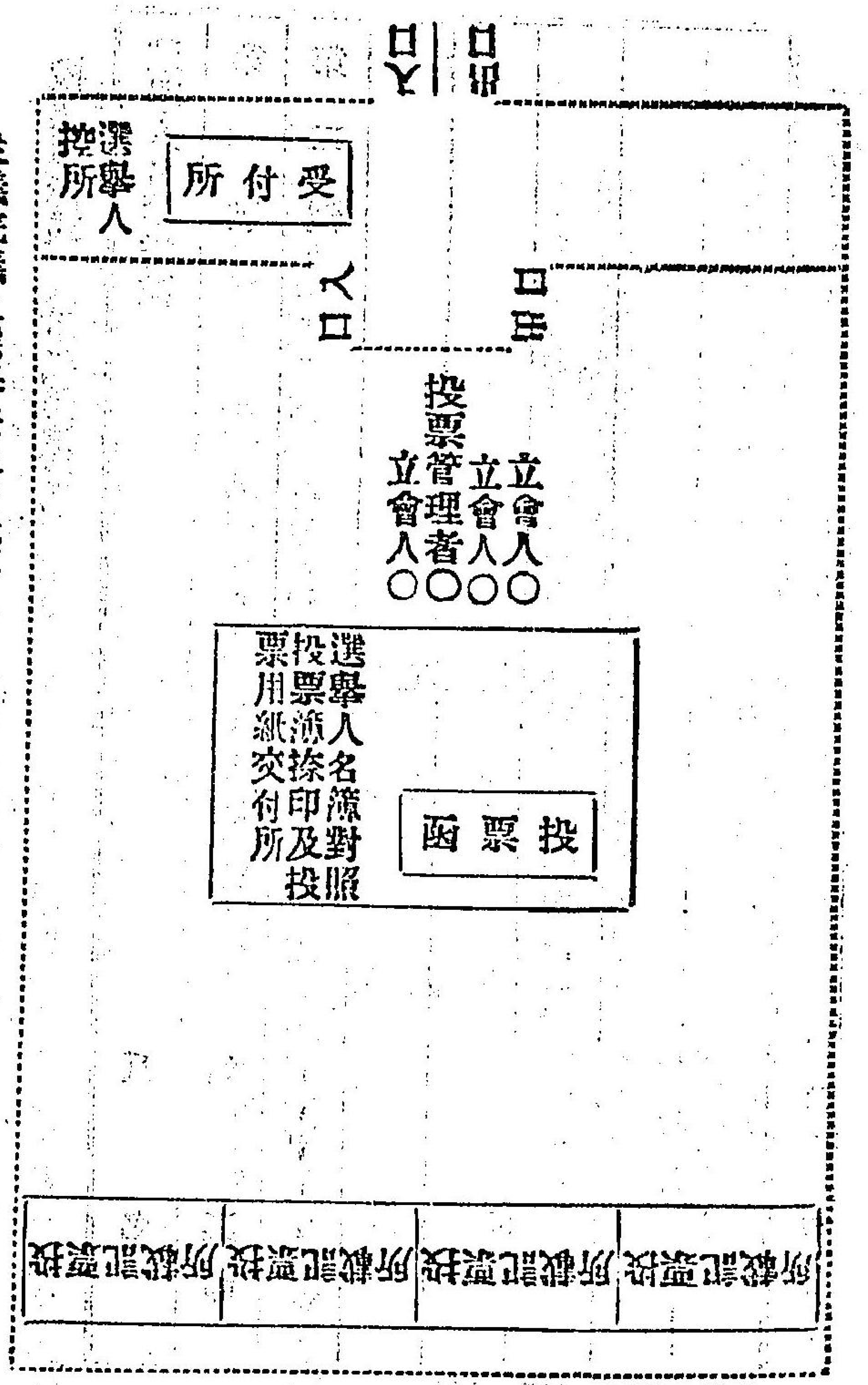
投票錄開票錄選擧錄ハ謄本ヲ調製シ選擧人又ハ被選擧人ノ請求アリタルトキハ之ヲ閲覽セシムヘシ

第十一條　當選證書ハ別記樣式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第十二條　投票所開票所選擧會場ニハ各其ノ門戸ニ標札ヲ揭クヘシ

（別記）

投票所樣式



投票簿様式（用紙美濃紙）

選擧人名簿番號	氏名
第一號	何 某 印
第二號	〃

一 投票簿ハ選擧人名簿ノ番號順序ニ依ラス便宜イロハ順ト為スモ妨ケナシ

投票錄樣式

何府縣郡市町村衆議院議員投票所投票錄

欄上
何年何月何日
投票執行

一 投票所ハ何町村役場（何市役所）（何ノ場所）ニ之ヲ設ケタリ

二 左ノ投票立會人ハ何レモ投票時刻マテニ投票所ニ參會シタリ

住所 氏名

住所 氏名

投票時刻ニ至リ投票立會人中何名參會セサルニ由リ投票管理者ハ臨時ニ投票區内ニ於ケル選擧人中ヨリ左ノ者ヲ投票立會人ニ選任シタリ

住所 氏名

三 投票場ハ何年何月何日午前第七時ニ之ヲ開キタリ

四 投票立會人中氏名ハ一旦參會シタルモ午前後第何時何々ノ事故ヲ以テ其職

ヲ辭シタル爲其ノ定數ヲ缺キタルニ由リ投票管理者ハ臨時ニ投票區內ニ於ケル選擧人中ヨリ午前(後)第何時左ノ者ヲ投票立會人ニ選任シタリ

住所　氏名

五　投票管理者ハ投票立會人ト共ニ投票ニ先チ投票所ニ參集シタル選擧人ノ面前ニ於テ投票函ヲ開キ其ノ空虛ナルコトヲ示シタル後內蓋ヲ鎖シ投票管理者及投票立會人ノ列席スル面前ニ之ヲ置キタリ

六　投票管理者及投票立會人ノ面前ニ於テ選擧人ヲシテ逐次其ノ住所氏名ヲ自稱セシメ選擧人名簿ニ對照シ且ツ投票簿ニ捺印セシメタル後（到著番號札ト引換ニ）投票用紙ヲ交付シタリ

七　選擧人ハ自ラ投票ヲ認メ之ヲ投票函ニ投入シタリ

八　投票管理者ハ左ノ選擧人ノ本人ナルヤ否ヤヲ確認スルコト能ハサリシヲ以テ投票立會人ノ面前ニ於テ其ノ本人ナル旨ヲ宣言セシメ投票所ノ事務ニ從事スル職氏名ヲシテ之ヲ筆記セシメ之ヲ選擧人ニ讀ミ聞カセ選擧人ヲシテ之ニ署名捺印セシメタリ

住所　氏名

投票管理者ハ左ノ選擧人ノ本人ナルヤ否ヤヲ確認スルコト能ハサリシヲ以テ投票立會人ノ面前ニ於テ其ノ本人ナル旨ノ宣言ヲ命シタルモ其ノ宣言ヲ爲サヽルニ依リ本人ニアラスト認メ之ヲ投票所外ニ退出セシメタリ

住所　氏名

九　左ノ選擧人ハ選擧人名簿ニ登錄ナキモ之ニ登錄セラルヘキ確定判決書ヲ所持シ投票所ニ到著シタルニ依リ投票管理者ハ之ヲシテ投票セシメタリ

住所　氏名

十　左ノ選擧人ハ何々ノ事由ニ依リ投票管理者ニ於テ投票立會人ノ意見ヲ聽キ投票ヲ拒否シタリ

住所　氏名

左ノ選擧人ハ何々ノ事由ニ依リ投票管理者ニ於テ投票立會人ノ意見ヲ聽

キ投票ヲ拒否スヘキ旨決定シタルモ同選擧人ニ於テ不服ヲ申立ツルヲ以テ（投票立會人氏名ニ於テ異議アルヲ以テ）假ニ投票ヲ爲サシメタリ

住所　氏名

十一　左ノ選擧人ハ誤テ投票用紙、封筒ヲ汚損シタル旨ヲ以テ更ニ之ヲ請求シタルニ依リ其ノ相違ナキヲ認メ之ト引換ニ投票用紙、封筒ヲ交付シタリ

住所　氏名

十二　左ノ選擧人ハ投票所ニ於テ演說討論ヲ爲シ（喧騷ニ涉リ）（投票ニ關シ協議若ハ勸誘ヲ爲シ）（何々ニ因リ）投票所ノ秩序ヲ紊リタルニ依リ投票管理者ニ於テ之ヲ制止シタルモ其ノ命ニ從ハサルヲ以テ投票用紙（到着番號札）ヲ取上ケ之ヲ投票所外ニ退出セシメタリ

住所　氏名

十三　投票管理者ハ投票所ノ入口ヲ鎖スニ先チ投票所外ニ退出ヲ命シタル選擧人ニ對シ入場ヲ許シタルニ左ノ選擧人入場シタルヲ以テ投票セシメタリ

住所　氏名

十四　午後六時ニ至リ投票管理者ハ投票所ヲ閉ツヘキ時刻ニ至リタル由ヲ告ケ投票所ノ入口ヲ鎖シタリ

十五　午後第何時投票所ニ在ル選擧人ノ投票結了シタルヲ以テ投票管理者ハ投票立會人ト共ニ投票函ノ内蓋ノ投票口及外蓋ヲ鎖シタリ

十六　投票函ヲ閉鎖シタルニ依リ其ノ內蓋ノ鑰ハ投票函ヲ送致スヘキ左ノ投票立會人之ヲ保管シ外蓋ノ鑰ハ投票管理者之ヲ保管ス

氏名

十七　投票函投票錄及選擧人名簿ヲ開票管理者ニ送致スヘキ投票立會人左ノ如シ

氏名

十八　左ノ何名ハ投票所ノ事務ニ從事シタリ

職　氏　名

職　氏　名

十九　投票所ニ臨監シタル官吏左ノ如シ

官職　氏　名

二十　選擧人名簿ニ記載セラレタル者ノ總數　何　人

投票シタル選擧人ノ總數　何　人

投票拒否ノ決定ヲ受ケタル者ノ總數　何　人

内

假ニ投票ヲ爲サシメタル者　何　人

二十一　以上ノ外投票ニ關シ投票管理者ニ於テ緊要ト認ムル事項アルトキハ之ヲ記載スヘシ

投票管理者ハ此ノ投票錄ヲ作リ之ヲ朗讀シタル上投票立會人ト共ニ茲ニ署名ス

何年何月何日

投票管理者　何市町村長　氏　名

投票立會人　氏　名

氏　名

氏　名

開票錄樣式

何府縣郡市衆議院議員開票所開票錄

何年何月何日　開票執行

一　開票所ハ何郡市役所（何ノ場所）ニ之ヲ設ケタリ

二　左ノ開票立會人ハ何レモ開票時刻マテニ開票所ニ參會シタリ

[illegible]

住所　氏名
住所　氏名
住所　氏名

開票時刻ニ至リ開票立會人中何名參會セサルニ由リ開票管理者ハ臨時ニ開票區內ニ於ケル選擧人中ヨリ左ノ者ヲ開票立會人ニ選任シタリ

住所　氏名

三　何年何月何日各投票所ノ投票函總テ到達シタルヲ以テ(郡)
何年何月何日投票ヲ了リタルヲ以テ(市)
其ノ翌何日開票所ヲ開キ午前第何時ヨリ開票ヲ行フ

四　開票立會人中氏名ハ一旦參會シタルモ午前/後第何時何々ノ事故ヲ以テ其ノ職ヲ辭シタル爲其ノ定數ヲ缺キタルニ由リ開票管理者ハ臨時ニ開票區內ニ於ケル選擧人中ヨリ午前/後第何時左ノ者ヲ開票立會人ニ選任シタリ

住所　氏名

五　開票管理者ハ開票立會人立會ノ上逐次投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算シタルニ左ノ如シ

投票數　何票
投票人數　何人
外
假ニ爲シタル投票數　何票
假ニ爲シタル投票人數　何人

投票總數ト投票人總數ト符合セリ
投票總數ト投票人總數ト符合セス即投票總數ハ投票人總數ニ比シ何票多ク又ハ少シ(其ノ理由ノ明カナルモノハ之ヲ記載スヘシ)

六　投票管理者ヨリ拒否ノ決定ヲ受ケタル者ニ於テ假ニ投票ヲ爲シタル者左ノ如シ

住所　氏名
住所　氏名

開票管理者ハ右ノ投票ヲ調査シ開票立會人ノ意見ヲ聽キ左ノ通之ヲ決定シタリ

受理セシモノ
一　事由何々　住所　氏名
一　事由何々　住所　氏名

受理セサリシモノ
一　事由何々　住所　氏名
一　事由何々　住所　氏名

七　開票管理者ハ各投票所ノ投票ヲ混同シ開票立會人ト共ニ投票ヲ點檢シ開票管理者ハ毎票記載ノ氏名ヲ朗讀シタリ

八　選擧事務ニ從事スル官職氏名及官職氏名ノ二名ハ投票記載ノ氏名ノ朗讀ニ應シ各別ニ同一被選擧人ノ得票ヲ點數簿ニ記入シ且其ノ一名ニ於テ各被選擧人ノ得票ヲ記入スル毎ニ其ノ得票數ヲ呼ヒ他ノ一名ト共ニ其ノ得票數ヲ校合シタリ

九　開票管理者ニ於テ開票立會人ノ意見ヲ聽キ有效又ハ無效ト決定シタル投票左ノ如シ

一　有效ト決定シタルモノ　何　票
一　無效ト決定シタルモノ　何　票

内

一　成規ノ用紙ヲ用ヒサルモノ　何　票
二　一投票中二人以上ノ被選人ヲ記載シタルモノ　何　票
三　被選擧人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ　何　票
四
五

總計　何　票

廿　午後第何時投票ノ點檢ヲ了リタルヲ以テ開票管理者ハ各被選擧人ノ得票數ヲ朗讀シタリ

廿一　被選擧人ノ得票數左ノ如シ

何　票　氏　名

何　票　氏　名

廿二　開票管理者ハ點檢濟投票ノ有效無效及不受理ノ決定アリタル投票ヲ大別シ尙有效ノ決定アリタル投票ニ在テハ得票者每ニ之ヲ區別シ無效ノ決定アリタル投票ニ在テハ之ヲ類別シテ各別ニ之ヲ封筒ニ入レ開票立會人ト共ニ之ニ封印シタリ

十三　午前後第何時開票所ノ事務ヲ結了ス

十四　左ノ何名ハ開票所ノ事務ニ從事シタリ

官職　氏　名

十五　開票所ニ臨監シタル官吏左ノ如シ

官職　氏　名

官職　氏　名

十六　以上ノ外開票ニ關シ開票管理者ニ於テ緊要ト認ムル事項アルトキハ之ヲ記載スヘシ

開票管理者ハ此ノ開票錄ヲ作リ之ヲ朗讀シタル上開票立會人ト共ニ玆ニ署名ス

何年何月何日

開票管理者

何郡市長　氏　名

開票立會人

氏　名

氏　名

氏　　　名

選擧錄樣式

何府縣郡部(何市)(何市郡部)衆議院議員選擧會選擧錄

欄上　何年何月何日
選擧會開會

一　選擧會ハ何年何月何日何ノ場所ニ於テ之ヲ開キ午前第何時ヨリ其ノ事務ヲ開始シタリ

二　左ノ選擧立會人ハ何レモ選擧會開會ノ時刻マテニ選擧會ニ參會シタリ

住　所　　氏　　　名
住　所　　氏　　　名
住　所　　氏　　　名

選擧會開會ノ時刻ニ至リ選擧立會人中何名參會セサルニ由リ選擧長ハ臨時ニ選擧區內ニ於ケル選擧人中左ノ者ヲ選擧立會人ニ選任シタリ

住　所　　氏　　　名

三　選擧立會人中氏名ハ一旦參會シタルモ午前(後)第何時何々ノ事故ヲ以テ其ノ職ヲ辭シタル爲其ノ定數ヲ缺キタルニ由リ選擧長ハ臨時ニ選擧區內ニ於ケル選擧人中ヨリ午前(後)第何時左ノ者ヲ選擧立會人ニ選任シタリ

住　所　　氏　　　名

四　選擧長ハ選擧立會人立會ノ上開票管理者ノ報告書ヲ逐次調査シ每開票區得票者ノ氏名及其ノ得票數ヲ朗讀シ終ニ各得票者ノ得票總數ヲ朗讀シタリ其ノ得票總數左ノ如シ

何　票　　氏　　　名
何　票　　氏　　　名
何　票　　氏　　　名

五　選擧區內ノ議員定數何人ヲ以テ選擧人名簿ニ記載セラレタル者ノ總數何人ヲ除シテ得タル數ハ何人ニシテ此ノ五分ノ一ノ數ハ何票ナリ得票者中此ノ數ニ達スルモノヲ擧クレハ左ノ如シ

何　票　　　　氏　名

何　票　　　　氏　名

右ノ内有效投票ノ最多數ヲ得タル左ノ何名ヲ以テ當選人トス

氏　名

氏　名

（但シ氏名及氏名ハ得票ノ數相同キニ依リ其ノ生年月ヲ調査スルニ氏名ハ何年何月生氏名ハ何年何月生ニシテ氏名年長者ナルヲ以テ則氏名ヲ以テ當選人ト定メタリ

同年月ナルヲ以テ選擧長ニ於テ抽籤シタルニ氏名當籤セリ依テ氏名ヲ以テ當選人ト定メタリ）

六　午後第何時選擧會ノ事務ヲ結了ス

七　左ノ何名ハ選擧會ノ事務ニ從事シタリ

官職　　氏　名

官職　　氏　名

八　以上ノ外選擧ニ關シ選擧長ニ於テ緊要ト認ムル事項アルトキハ之ヲ記載スヘシ

選擧長ハ此ノ選擧錄ヲ作リ之ヲ朗讀シタル上選擧立會人ト共ニ茲ニ署名ス

何年何月何日

選擧長
何府縣知事　　氏　名

選擧立會人　　氏　名

氏　名

氏　名

衆議院議員當選證書

住所

氏名

右ノ者何府縣(何府縣郡部)(何府縣何市)選擧區ニ於テ衆議院議員ニ當選シタルコトヲ證ス

年月日

地方長官　氏名印

點數票樣式　用紙美濃紙

得票總數

		二〇	四〇	六〇	八〇	一〇〇	一二〇	一四〇	一六〇	一八〇
一	〇									
二	〇									
三	〇									
四	〇									
五	〇									
六										
七										
八										
九										
一〇										

氏名

	一〇	三〇	五〇	七〇	九〇	一一〇	一三〇	一五〇	一七〇	一九〇
一										
二										
三										
四										
五										
六										
七										
八										
九										
一〇										

衆議院議員選擧法罰則施行ニ關スル件

（明治三十五年三月二十四日 内務省訓令第三號）　廳府縣沖繩縣ヲ除ク

改正衆議院議員選擧法中罰則ニ關スル規定ノ如キハ總選擧ノ關係ニ於テハ施行相成リ居候儀ニ付既ニ總選擧ノ運動ニ著手シ諸般不正ノ行爲ニ依リ選擧ノ自由公正ヲ害セントスル者ノ如キ苟モ罰則ノ條規ニ觸ルルモノアルニ於テハ宜シク假借スル所ナク嚴ニ之カ防遏處斷ノ方法ヲ講スルヲ要ス若シ夫レ其ノ詳細ニ至リテハ追テ指示スル所アルヘシト雖選擧取締ノ如キハ特ニ其ノ始メヲ愼ミ嚴密周到ヲ要スル故ニ此際深ク留意シ選擧取締上苟モ遺算ナキヲ期セラルヘシ

選擧ニ關シ神職ノ心得方

（明治三十五年四月二日 内務省訓令第十號）

北海道廳　府縣

神職ハ神明ニ奉仕シ齋肅恭敬其職ヲ盡クスヲ以テ本分トシ苟モ政治ヲ論議シ政黨ニ關與スルカ如キ本分以外ノ行爲アルヲ許サス故ニ明治二十七年衆議院議員總選擧ニ當リ訓令第五號ヲ以テ特ニ戒飭スル所アリシニ今ヤ總選擧ノ期又將ニ至ラントス神職タルモノ宜シク其本分ヲ顧ミ選擧關係等ノ行爲無之樣嚴重監督スヘシ

選擧ニ關シ各教各宗派教師僧侶ノ心得方

（明治三十五年四月二日 内務省訓令第十一號）

神佛各教宗派管長

各教宗派ノ教師僧侶タル者ハ布教化導ニ力ムルノ外又他アルヘカラス若シ夫レ政治ニ容喙シ時事ニ狂奔スル如キハ啻ニ其職分ト相容レサルノミナラス其弊ヤ洵ニ尠シトナサス此ニ於テ本大臣ハ數々各管長ニ訓諭シ派内ヲ戒飭セシメタル所アリシニ今ヤ衆議院議員總選擧ノ期將サニ迫ラントス此際管長ニ於テ派内ノ教師僧侶ニ對シ苟モ本分ヲ紊ル者無之樣嚴重訓戒ヲ加フヘシ

刑法

公選ノ投票ヲ僞造スル罪

第二百三十三條　公選ノ投票ヲ僞造シ又ハ其數ヲ增減シタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百三十四條　賄賂ヲ以テ投票ヲ爲サシメ又ハ賄賂ヲ受ケテ投票ヲ爲シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百三十五條　投票ヲ檢査シ及ヒ其數ヲ計算スル者其投票ヲ僞造シ又ハ增減シタル時ハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百三十六條　調書ヲ造リ投票ノ結局ヲ報告スル者其數ヲ增減シ其他詐僞ノ所爲アル時ハ一年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル法例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名　御璽

明治三十一年六月十五日

内閣總理大臣　侯爵　伊藤博文
海軍大臣　侯爵　西鄕從道
大藏大臣　伯爵　井上馨
内務大臣　子爵　芳川顯正
外務大臣　男爵　西德二郎
陸軍大臣　子爵　桂太郎
司法大臣　曾禰荒助
遞信大臣　文學博士男爵　末松謙澄
農商務大臣　金子堅太郎
文部大臣　文學博士　外山正一

法律第十號

法例別册ノ通之ヲ定ム

此法律施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

明治二十三年法律第九十七號法例ハ此法律發布ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

（別册）

法例

第一條　法律ハ公布ノ日ヨリ起算シ滿二十日ヲ經テ之ヲ施行ス但法律ヲ以テ之ニ異ナリタル施行時期ヲ定メタルトキハ此限ニ在ラス

臺灣、北海道、沖繩縣其他島地ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ施行時期ヲ定ムルコトヲ得

第二條　公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反セサル慣習ハ法令ノ規定ニ依リテ認メタルモノ及ヒ法令ニ規定ナキ事項ニ關スルモノニ限リ法律ト同一ノ效力ヲ有ス

第三條　人ノ能力ハ其本國法ニ依リテ之ヲ定ム

外國人カ日本ニ於テ法律行爲ヲ爲シタル場合ニ於テ其外國人カ本國法ニ依レハ無能力者タルヘキトキト雖モ日本ノ法律ニ依レハ能力者タルヘキトキハ前項ノ規定ニ拘ハラス之ヲ能力者ト看做ス

前項ノ規定ハ親族法又ハ相續法ノ規定ニ依ルヘキ法律行爲及ヒ外國ニ在ル不

動産ニ關スル法律行爲ニ付テハ之ヲ適用セス

第四條　禁治産ノ原因ハ禁治産者ノ本國法ニ依リ其宣告ノ效力ハ宣告ヲ爲シタル國ノ法律ニ依ル

日本ニ住所又ハ居所ヲ有スル外國人ニ付キ其本國法ニ依リ禁治産ノ原因アルトキハ裁判所ハ其者ニ對シテ禁治産ノ宣告ヲ爲スコトヲ得但日本ノ法律カ其原因ヲ認メサルトキハ此限ニ在ラス

第五條　前條ノ規定ハ準禁治産ニ之ヲ準用ス

第六條　外國人ノ生死カ分明ナラサル場合ニ於テハ裁判所ハ日本ニ在ル財産及ヒ日本ノ法律ニ依ルヘキ法律關係ニ付テノミ日本ノ法律ニ依リテ失踪ノ宣告ヲ爲スコトヲ得

第七條　法律行爲ノ成立及ヒ效力ニ付テハ當事者ノ意思ニ從ヒ其何レノ國ノ法律ニ依ルヘキカヲ定ム

當事者ノ意思カ分明ナラサルトキハ行爲地法ニ依ル

第八條　法律行爲ノ方式ハ其行爲ノ效力ヲ定ムル法律ニ依ル

行爲地法ニ依リタル方式ハ前項ノ規定ニ拘ハラス之ヲ有效トス但物權其他登記スヘキ權利ヲ設定シ又ハ處分スル法律行爲ニ付テハ此限ニ在ラス

第九條　法律ヲ異ニスル地ニ在ル者ニ對シテ爲シタル意思表示ニ付テハ其通知ヲ發シタル地ヲ行爲地ト看做ス

契約ノ成立及ヒ效力ニ付テハ申込ノ通知ヲ發シタル地ヲ行爲地ト看做ス若シ其申込ヲ受ケタル者カ承諾ヲ爲シタル當時申込ノ發信地ヲ知ラサリシトキハ申込者ノ住所地ヲ行爲地ト看做ス

第十條　動産及ヒ不動産ニ關スル物權其他登記スヘキ權利ハ其目的物ノ所在地法ニ依ル

前項ニ揭ケタル權利ノ得喪ハ其原因タル事實ノ完成シタル當時ニ於ケル目的物ノ所在地法ニ依ル

第十一條　事務管理、不當利得又ハ不法行爲ニ因リテ生スル債權ノ成立及ヒ效

力ハ其原因タル事實ノ發生シタル地ノ法律ニ依ル

前項ノ規定ハ不法行爲ニ付テハ外國ニ於テ發生シタル事實カ日本ノ法律ニ依レハ不法ナラサルトキハ之ヲ適用セス

外國ニ於テ發生シタル事實カ日本ノ法律ニ依リテ不法ナルトキト雖モ被害者ハ日本ノ法律カ認メタル損害賠償其他ノ處分ニ非サレハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

第十二條　債權讓渡ノ第三者ニ對スル效力ハ債務者ノ住所地法ニ依ル

第十三條　婚姻成立ノ要件ハ各當事者ニ付キ其本國法ニ依リテ之ヲ定ム但其方式ハ婚姻擧行地ノ法律ニ依ル

前項ノ規定ハ民法第七百七十七條ノ適用ヲ妨ケス

第十四條　婚姻ノ效力ハ夫ノ本國法ニ依ル

外國人カ女戸主ト入夫婚姻ヲ爲シ又ハ日本人ノ壻養子ト爲リタル場合ニ於テハ婚姻ノ效力ハ日本ノ法律ニ依ル

第十五條　夫婦財產制ハ婚姻ノ當時ニ於ケル夫ノ本國法ニ依ル

外國人カ女戸主ト入夫婚姻ヲ爲シ又ハ日本人ノ壻養子ト爲リタル場合ニ於テハ夫婦財產制ハ日本ノ法律ニ依ル

第十六條　離婚ハ其原因タル事實ノ發生シタル時ニ於ケル夫ノ本國法ニ依ル但裁判所ハ其原因タル事實カ日本ノ法律ニ依ルモ離婚ノ原因タルトキニ非サレハ離婚ノ宣告ヲ爲スコトヲ得ス

第十七條　子ノ嫡出ナルヤ否ヤハ其出生ノ當時母ノ夫ニ屬シタル國ノ法律ニ依リテ之ヲ定ム若シ其夫カ子ノ出生前ニ死亡シタルトキハ其最後ニ屬シタル國ノ法律ニ依リテ之ヲ定ム

第十八條　私生子認知ノ要件ハ其父又ハ母ニ關シテハ認知ノ當時父又ハ母ノ屬スル國ノ法律ニ依リテ之ヲ定メ其子ニ關シテハ認知ノ當時子ノ屬スル國ノ法律ニ依リテ之ヲ定ム

認知ノ效力ハ父又ハ母ノ本國法ニ依ル

第十九條　養子縁組ノ要件ハ各當事者ニ付キ其本國法ニ依リテ之ヲ定ム
養子縁組ノ效力及ヒ離縁ハ養親ノ本國法ニ依ル
第二十條　親子間ノ法律關係ハ父ノ本國法ニ依ル若シ父アラサルトキハ母ノ本國法ニ依ル
第二十一條　扶養ノ義務ハ扶養義務者ノ本國法ニ依リテ之ヲ定ム
第二十二條　前九條ニ掲ケタルモノヽ外親族關係及ヒ之ニ因リテ生スル權利義務ハ當事者ノ本國法ニ依リテ之ヲ定ム
第二十三條　後見ハ被後見人ノ本國法ニ依ル
日本ニ住所又ハ居所ヲ有スル外國人ノ後見ハ其本國法ニ依レハ後見開始ノ原因アルモ後見ノ事務ヲ行フ者ナキトキ及ヒ日本ニ於テ禁治産ノ宣告アリタルトキニ限リ日本ノ法律ニ依ル
第二十四條　前條ノ規定ハ保佐ニ之ヲ準用ス
第二十五條　相續ハ被相續人ノ本國法ニ依ル

第二十六條　遺言ノ成立及ヒ效力ハ其成立ノ當時ニ於ケル遺言者ノ本國法ニ依ル
遺言ノ取消ハ其當時ニ於ケル遺言者ノ本國法ニ依ル
前二項ノ規定ハ遺言ノ方式ニ付キ行為地法ニ依ルコトヲ妨ケス
第二十七條　當事者ノ本國法ニ依ルヘキ場合ニ於テ其當事者カ二箇以上ノ國籍ヲ有スルトキハ最後ニ取得シタル國籍ニ依リテ其本國法ヲ定ム但其一カ日本ノ國籍ナルトキハ日本ノ法律ニ依ル
國籍ヲ有セサル者ニ付テハ其住所地法ヲ以テ本國法ト看做ス其住所カ知レサルトキハ其居所地法ニ依ル
地方ニ依リ法律ヲ異ニスル國ノ人民ニ付テハ其者ノ屬スル地方ノ法律ニ依ル
第二十八條　當事者ノ住所地法ニ依ルヘキ場合ニ於テ其住所カ知レサルトキハ其居所地法ニ依ル

前條第一項及ヒ第三項ノ規定ハ當事者ノ住所地法ニ依ルヘキ場合ニ之ヲ準用ス

第二十九條　當事者ノ本國法ニ依ルヘキ場合ニ於テ其國ノ法律ニ從ヒ日本ノ法律ニ依ルヘキトキハ日本ノ法律ニ依ル

第三十條　外國法ニ依ルヘキ場合ニ於テ其規定カ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スルトキハ之ヲ適用セス

法例ヲ臺灣ニ施行スル件（明治三十一年七月勅令第百六十一號）

明治三十一年法律第十號法例ヲ臺灣ニ施行ス

省令廳令警察令ニ關スル罰則ノ件（明治三十二年九月勅令第二百八號）

第一條　各省大臣ハ法律ヲ以テ特ニ規定シタル場合ヲ除クノ外其發スル所ノ省令ニ貳十五圓以内ノ罰金若クハ二十五日以下ノ禁錮ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

第二條　地方長官及警視總官ハ其發スル所ノ命令ニ拾圓以内ノ罰金若クハ拘留ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

命令ノ條項違犯ニ關スル件（明治三十二年九月法律第八十四號）

命令ノ條項ニ違犯スル者ハ各其ノ命令ニ規定スル所ニ從ヒ二百圓以内ノ罰金若

法例ヲ臺灣ニ施行スル件　省令廳令警察令ニ關スル罰則ノ件　命令ノ條項違犯ニ關スル件

ハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

臺灣ニ施行スヘキ法令ニ關スル件（明治二十九年三月法律第六十三號）

第一條　臺灣總督ハ其ノ管轄區域內ニ法律ノ效力ヲ有スル命令ヲ發スルコトヲ得

第二條　前條ノ命令ハ臺灣總督府評議會ノ議決ヲ取リ拓殖務大臣ヲ經テ勅裁ヲ請フヘシ

臺灣總督府評議會ノ組織ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條　臨時緊急ヲ要スル場合ニ於テ臺灣總督ハ前條第一項ノ手續ヲ經スシテ直ニ第一條ノ命令ヲ發スルコトヲ得

第四條　前條ニ依リ發シタル命令ハ發布後直ニ勅裁ヲ請ヒ且之ヲ臺灣總督府評議會ニ報告スヘシ

勅裁ヲ得サルトキハ總督ハ直ニ其ノ命令ノ將來ニ向テ效力ナキコトヲ公布スヘシ

第五條　現行ノ法律又ハ將來發布スル法律ニシテ其ノ全部又ハ一部ヲ臺灣ニ施行スルヲ要スルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條　此ノ法律ハ明治三十五年三月三十一日マテ其ノ效力ヲ有ス（三十二年法律第七號ヲ以テ本條改正）

外國人ノ署名捺印及無資力證明ニ關スル件（明治三十二年三月法律第五十號）

第一條　法令ノ規定ニ依リ署名、捺印スヘキ場合ニ於テハ外國人ハ署名スルヲ以テ足ル

捺印ノミヲ爲スヘキ場合ニ於テハ外國人ハ署名ヲ以テ捺印ニ代フルコトヲ得

第二條　民事訴訟法第九十二條ニ依リ訴訟上ノ救助ヲ求ムル外國人ハ日本ニ住

所、居所ヲ有セサルトキハ其ノ住所又ハ居所アル外國ノ管轄官廳ノ證明書ヲ以テ同法第九十三條ニ定メタル無資力ノ證明ヲ爲スコトヲ要ス但シ其ノ證明書ニハ日本ニ駐在スル其ノ外國ノ領事ノ認證ヲ受クヘシ

日本ニ住所又ハ居所ヲ有スル外國人ハ其ノ住所地又ハ居所地ノ市町村長ノ證明書ヲ以テ前項ノ證明ヲ爲スコトヲ要ス但シ市町村長ノ證明書ヲ提出スルコト能ハサルトキ又ハ其ノ證明カ不十分ナルトキハ裁判所ハ日本ニ駐在スル本國領事ノ認證アル本國管轄官廳ノ證明書ヲ提出セシムルコトヲ得

附則

第三條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

公文式（明治十九年二月勅令第一號）

第一　法律命令

第一條　法律勅令ハ上諭ヲ以テ之ヲ公布ス

法律ノ元老院ノ議ヲ經ルヲ要スルモノハ舊ニ依ル

第二條　法律勅令ハ内閣ニ於テ起草シ又ハ各省大臣案ヲ具ヘテ内閣ニ提出シ總テ内閣總理大臣ヨリ上奏裁可ヲ請フ

第三條　法律及一般ノ行政ニ係ル勅令ハ親署ノ後御璽ヲ鈐シ内閣總理大臣年月日ヲ記入シ主任大臣ト倶ニ之ニ副署ス其ノ各省專任ノ事務ニ屬スルモノハ主任大臣年月日ヲ記入シ之ニ副署ス（二十二年勅令第百三十九號ヲ以テ本條改正）

第四條　内閣總理大臣及各省大臣ハ法律勅令ノ範圍内ニ於テ其職權若クハ特別ノ委任ニ依リ法律勅令ヲ施行シ又ハ安寧秩序ヲ保持スル爲メニ閣令又ハ省令ヲ發スルコトヲ得

第五條　閣令ハ内閣總理大臣之ヲ發シ省令ハ各省大臣之ヲ發ス

第六條　閣令ハ年月日ヲ記入シ内閣總理大臣之ニ署名ス

第七條　省令ハ年月日ヲ記入シ主任大臣之ニ署名ス

第八條　各官廳一般ニ關スル規則ハ内閣總理大臣之ヲ定メ各廳處務細則ハ其主任大臣之ヲ定ム

第九條　内閣總理大臣及各省大臣ノ所轄官吏及其ノ監督ニ關スル官吏ニ達スル訓令モ亦第六條第七條ノ例ニ依ル

第二　布告

第十條　凡ソ法律命令ハ官報ヲ以テ布告シ官報各府縣廳到達日數ノ後七日ヲ以テ施行ノ期限トナス但官報到達日數ハ明治十六年五月二十六日第十四號布達ニ依ル（三十一年法律第十號法例第一條參看）

第十一條　天災時變ニ依リ官報到達日數内ニ到達セサルトキハ其到達ノ翌日ヨリ起算ス

第十二條　北海道及沖繩縣ハ官報到達日數ヲ定メス現ニ道廳又ハ縣廳ニ到達シタル翌日ヨリ起算ス

島地ハ所轄郡役所ニ官報ノ到達シタル翌日ヨリ起算ス

第十三條　法律命令ノ發布ノ當日ヨリ施行セシムルコトヲ要シ又ハ特ニ施行ノ日ヲ掲ケタルモノハ第十條、第十一條、第十二條ノ例ニ依ラス

第三　印璽

第十四條　國璽御璽ハ内大臣之ヲ尙藏ス

國璽御璽ハ親署ノ後内大臣之ヲ鈐ス

第十五條　法律勅令ハ親署ノ後御璽ヲ鈐ス

第十六條　國書條約批准外國派遣官吏委任狀在留各國領事證認狀及三等以上勳章ノ勳記ハ親署ノ後國璽ヲ鈐ス

四等以下勳章ノ勳記ハ國璽ヲ鈐ス

第十七條　勅任官ノ任命ハ其ノ辭令書ニ御璽ヲ鈐シ奏任官ノ任命ハ其ノ奏薦書ニ御璽ヲ鈐ス

官報到達日數（明治十六年五月 太政官第十四號布達）

今般第十七號ヲ以テ布告布達施行期限ヲ改定シタルニ付到達日數左ノ通之ヲ定ム

到達日數

京都府	四日	大阪府	四日	神奈川縣	即日
兵庫縣	四日	長崎縣	十一日	新潟縣	五日
埼玉縣	即日	群馬縣	即日	千葉縣	即日
茨城縣	二日	栃木縣	二日	三重縣	四日
愛知縣	三日	靜岡縣	二日	山梨縣	二日
滋賀縣	四日	岐阜縣	四日	長野縣	四日
宮城縣	五日	福島縣	四日	岩手縣	七日
青森縣	十日	山形縣	五日	秋田縣	八日
福井縣	八日	石川縣	七日	富山縣	六日
鳥取縣	七日	島根縣	八日	岡山縣	六日
廣島縣	七日	山口縣	八日	和歌山縣	六日
德島縣	六日	愛媛縣	九日	高知縣	八日
福岡縣	九日	大分縣	十一日	佐賀縣	十一日
熊本縣	十一日	宮崎縣	十一日	鹿兒島縣	十二日

但富山佐賀宮崎ノ三縣ハ開廳ノ日マテ舊管縣ノ到達日數ニ依ル（十七年七月三縣開廳ニ依リ但書消滅）

右布達候事

閣令（明治二十一年十二月 第二十二號）

官報到達日數奈良縣ハ大阪府ニ香川縣ハ愛媛縣ニ同シ

地方官廳ノ發スル命令ノ公布式（明治二十六年十月勅令第百九十九號）

第一條　警視廳令、北海道廳令、府縣令、島廳令及郡令ニハ其ノ警視廳令、北海道廳令、府縣令、島廳令又ハ郡令ナルコトヲ明記シ警視總監、北海道廳長官、府縣知事、島司又ハ郡長各〻之ニ署名シ公布ノ年月日ヲ記入シテ同日之ヲ公布スヘシ

第二條　警視廳令、北海道廳令及府縣令ヲ公布スルノ方法ハ警視廳令、北海道廳令又ハ府縣令ノ定ムル所ニ依ル

島廳令及郡令ヲ公布スルノ方法ハ北海道廳令又ハ府廳令ノ定ムル所ニ依ル

第三條　警視廳令、北海道廳令及府縣令ハ特ニ施行ノ期日ヲ掲クルモノヲ除クノ外警視廳令、北海道廳令又ハ府縣令中ニ記入シタル公布ノ日ヨリ起算シ七日ヲ經テ之ヲ施行ス但島廳又ハ郡役所所在ノ島地ニ在テハ其ノ所轄島廳又ハ郡役所ニ到達シタル日ヨリ起算シ其ノ他ノ島地ニ在テハ所轄町村役場又ハ戸

長役場ニ到達シタル日ヨリ起算ス

警視廳令、北海道廳令及府縣令ヲ登載シタル印刷物ヲ管内一般ノ島廳、郡區役所、町村役場又ハ戸長役場ニ配付スルヲ以テ公布ノ方法ト定メサル場合ニ於テモ前項ノ島廳、郡役所、町村役場又ハ戸長役場ニ對シテハ仍該令ヲ登載シタル印刷物若クハ謄本ヲ配付スヘキモノトス

第四條　島廳令及郡令ハ特ニ施行ノ期日ヲ掲クルモノヲ除クノ外島廳令又ハ郡令ニ記入シタル公布ノ日ヨリ起算シ七日ヲ經テ之ヲ施行ス但島廳及郡役所所在ノ地ヲ除クノ外島地ニ在テハ其ノ所轄町村役場又ハ戸長役場ニ到達シタル日ヨリ起算ス

島廳令及郡令ヲ登載シタル印刷物若クハ謄本ヲ部内一般ノ町村役場又ハ戸長役場ニ配付スルヲ以テ公布ノ方法ト定メサル場合ニ於テモ前項ノ町村役場又ハ戸長役場ニ對シテハ仍該令ヲ登載シタル印刷物若クハ謄本ヲ配付スヘキモノトス

附則

第五條 北海道區長ノ發スル區令ニハ本令中郡令ニ關スル規程ヲ適用ス

第六條 本令ハ明治二十六年十二月一日ヨリ施行ス

●改正民法

民法總則物權債權親族相續
民法施行法
國籍法
民法中改正
民法施行法中改正
内務大臣ノ主管ニ屬スル社團財團ノ法人ト爲スニ付キ申請方
宗教ノ宣布又ハ宗教上ノ儀式執行ヲ目的トスル法人ノ設立等ニ關スル規程
司法大臣ノ主管ニ屬スル社團財團ノ法人ト爲スニ付キ申請方
文部大臣ノ主管ニ屬スル法人ノ設立及監督ニ關スル規程
農商務大臣ノ主管ニ屬スル法人設立ノ件
地上權ニ關スル件